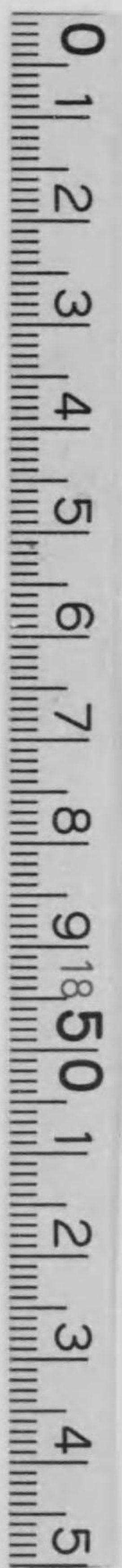
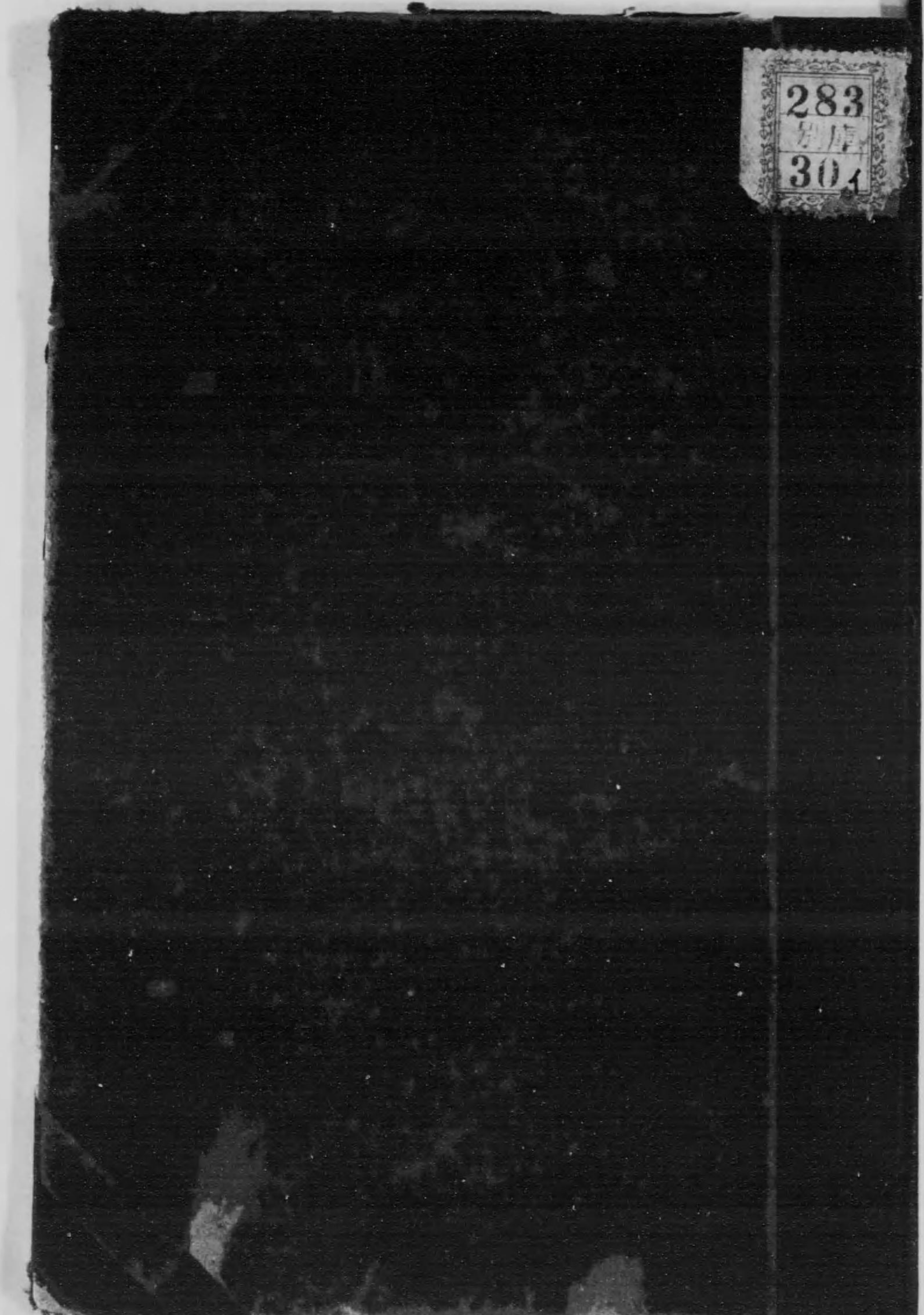


始



283
304



283
301

新潟高等學校一覽

自大正十一年
至大正十一年

新瀉高等學校一覽

自大正十一年
至大正十二年

目次

- 一 沿革
- 一 新瀉高等學校學則
- 一 生徒心得綱領
- 一 細則
- 一 職制及處務規程
- 二 試驗進級卒業規程
- 三 生徒心得
- 四 制服規程
- 五 學級總代規程
- 六 通學生規程

校寄贈本

一頁 一五五 一五五 一八〇 二二〇 二二七 二二八

大正
10.11.3
寄贈



七	寄宿舍規程	二八
八	自修寮規程	三〇
九	寮生規程	三二
一〇	寄宿舍警火規程	三五
一一	寄宿舍非常手配規程	三六
一二	圖書ニ關スル規程	三八
一三	物品會計規程施行細則	四三
一四	非常警備ニ關スル規程	四八
一五	宿直心得	五〇
一六	文書處理及保存規程	五三
職員		五八
前職員		六二ノ二
生徒氏名		六二ノ三

一	第一回入學式學校長訓示	七九
---	-------------	----

附則

一	新潟高等學校校友會規則	八七
一	新潟高等學校校友會會計規程	九一
關係法規		三
一	文部省直轄諸學校官制(抄出)	九五
一	文部省直轄諸學校職員定員令(抄出)	九六
一	文部省直轄諸學校長職務規程	九八
一	文部省直轄諸學校履外國人ニ關スル規程	九八
一	文部省直轄諸學校外國人特別入學規程	九八
一	臺灣人朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用	九九
一	學校及圖書館特別會計法(抄出)	一〇〇
一	高等學務令	一〇〇

一 高等學校規程	一〇五
一 高等學校高等科入學資格試驗規程	一二六
一 專門學校入學者檢定規程	一二七
一 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	一二九
一 直轄諸學校入學許可發表ノ件	一三一
一 學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄學校入學試驗無効ノ件	一三二
一 二校以上入學志願者ノ入學スヘキ學校ノ件	一三二
一 行幸啓ノ節學生生徒敬禮ノ件	一三三

新潟高等學校一覽

沿革

明治十九年四月勅令第十五號ヲ以テ高等中學校ノ舊制ヲ公布セラレ同年十一月文部省告示第三號ヲ以テ高等中學校ノ設置區域ヲ定メラレ新潟縣ハ其第四區ニ指定ノ上第四高等中學校ノ區域ニ編入セラル明治二十一年度ニ於テ新潟縣ハ右設置區域負擔額金六千參百六拾壹圓參拾八錢七厘ヲ議決支出セリ

明治三十二年高等學校増設ノ說アルヤ新潟縣ニ於テハ率先文部當局ニ陳述スル所アリ當時新潟縣臨時縣會ニテ參拾萬九千圓寄付ノ件ヲ即決シタリ是レ新潟縣ニ於ケル高等學校設置ノ濫觴ナリ

明治四十五年度ニ文部當局ニ於テ信越地方ヲ撰擇シテ高等中學校ヲ新設ノ議アルヤ時ノ縣會ハ速ニ新潟縣ニ設置セラル、ノ意見書ヲ內務大臣ニ提出セリ

爾來大正年間ニ至リ政府ニ於テ戰後ニ於ケル國力發展ニ鑑ミ高等教育機關増設ノ計劃アルヤ縣、市兩教育會並ニ縣會ニ於テハ各意見書ヲ提出シ新潟縣ニ高等學校ヲ設置セラルルノ急務ヲ披瀝シ設備費トシテ四十九萬六千二百圓ノ寄付ヲ議決セリ其間幾多ノ折衝ヲ經新潟市ニ設置ト決定スルヤ更ラニ敷地全部(二萬四十七坪七合)ノ寄付ヲ申請シ大正八年四月ニ至ツテ遂ニ其實現ヲ見ルニ至レリ

大正八年

四月十四日勅令第百十二號ヲ以テ文部省直轄學校官制ヲ改正シ同日勅令第百十三號ヲ以テ新潟高等學校職員ノ定員ヲ校長一人、教授十六人、書記三人ト定メラル

四月十五日公立中學校長(東京府立第三中學校長)八田三喜本校教授ニ任シ學校長事務取扱ヲ命セラル

四月十六日文部省令第十三號ヲ以テ新潟縣新潟市ニ新潟高等學校ヲ設置シ九月ヨリ授業開始ノ件並ニ同日文部省告示第百十九號ヲ以テ本校事務所ヲ文部省内ニ設置ノ旨告示セラル

五月廿四日文部省告示第百五十九號ヲ以テ本校事務所ヲ六月一日ヨリ新潟縣新潟師範學校内ニ移ス旨告示セラル

七月十一日ヨリ十四日迄入學選抜試驗ヲ施行シ同日廿八日生徒百六十名ノ入學ヲ許可ス

九月十日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則ヲ定ム

九月十一日ヨリ授業ヲ開始シ假寄宿舎ヲ二ヶ所ニ設ケ第一寮(新潟縣衛生會建物)第二寮(民家)ト稱ス

同月制服規程、學級總代規程、通學生規程、假寄宿舎規程、生徒心得綱領、生徒心得、生徒成績考查規程、圖書規程、試驗進級卒業規程ヲ定ム

十月本校職制及處務規程ヲ定ム

十一月非常警備ニ關スル規程、宿直心得ヲ定ム

大正九年

三月文部大臣ノ許可ヲ受ケ物品會計規程施行細則ヲ定ム

五月三十一日勅令第百八十號ヲ以テ本校職員定員中教授二十人、書記四人、助教授一人ト改正セラル

六月十二日學校長事務取扱教授八田三喜本校長兼教授ニ任セラル

六月十四日文部大臣ヨリ學則中追加ノ件許可セラル

七月十一日ヨリ十四日マテ入學選抜試験ヲ施行シ生徒百三十八名ノ入學ヲ許可ス

七月假寄宿舎ノ内第二寮ヲ閉鎖ス

八月二十二日新築校舎(西大畑町字濱浦)へ移轉ス

八月三十日新築寄宿舎ヲ開始ス

九月六日文部省告示第四百十號ヲ以テ本校ノ事務ヲ新潟市西大畑町新潟高等學校ニ取扱フ旨告示セラル

九月七日假寄宿舎第一寮ヲ新潟高等學校寄宿舎東寮ト改稱ス

九月八日文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則ヲ改正ス

九月制服規程、生徒心得、及試験進級卒業規程ヲ改正シ假寄宿舎規程ヲ廢シ新ニ寄

宿舍規程ヲ定ム

九月宿直心得中ノ一部ヲ改正ス

十月二十五日教育ニ關スル勅語謄本ヲ下賜セラル

大正十年

三月三十日勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員中教授二十五人書記五人助教授四人ト改正セラル

新潟高等學校學則

第一章 學年學期及休業日

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期 四月一日ニ始マリ十月十五日ニ終ル

第二學期 十月十六日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第三條 休業日左ノ如シ

日 曜 日

大祭日祝日

開校記念日

夏期休業

自七月十六日

冬期休業

自十二月二十五日

春期休業

自三月十六日

第四條 式日ハ左ノ如シ

入 學 式

天長節祝日

一月一日

紀 元 節

開校記念日(六月一日)

第五條 式日ニハ職員及生徒學校ニ參集シ所定ノ式ヲ行フ

第二章 學 科

第六條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ高等學校高等科文科及理科トス

第七條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨逸語トス

第三章 課程ノ修了及卒業ノ認定

第八條 每學期一回ヅ、成績考查ノ爲メ指定ノ日ヲ以テ試験ヲ行フ

第九條 各學科目ノ學期成績ハ每學期行フ試験ノ評點ニ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

試験ヲ缺キタル學科目ノ學期成績ハ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 各學年ノ課程ノ修了ハ每學期ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十一條 卒業成績ハ各學年修了ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十二條 各學科目ノ成績評點ハ十點ヲ以テ滿點トス

第十三條 各學年成績及卒業成績ハ各學科目五點以上ニシテ平均六點以上ヲ合格トシ進級又ハ卒業セシム

前項ノ規定ニ該當セサルモノト雖モ詮衡ノ上特ニ進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ

第十四條 試験ヲ行ハサル學科目ノ成績ハ平素ノ成績ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 學期成績ヲ缺キタル學科目ノ學年成績ハ其ノ學科目ノ他ノ學期成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四章 生徒ノ入學、退學、休學及懲戒

第十六條 入學ノ期ハ每年學年ノ始メトス

第十七條 入學志願者ノ手續及選抜試験ニ關スル規定ハ毎年別ニ之ヲ定ム

第十八條 入學檢定料ハ金五圓トス

一旦納付シタル檢定料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第十九條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ指定ノ期日迄ニ入學料ヲ納付スヘシ

第二十條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ退學セントスル時ハ其ノ事由ヲ詳記シテ本校ニ願出ツヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ除名ス

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

六 授業料ノ怠納十五日以上ニ及フ者

七 同一學年ニ在學滿二箇年ヲ超ユル者(陸海軍兵役ニ服シタル期間ハ算入セス)

第二十二條 願ニ依リ退學セルモノニシテ退學シタル時ヨリ一箇年以内ニ入學ヲ願ヒ出ツル時ハ詮議ノ上原學年ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但其ノ時期ハ第一學期ノ始メトス

第二十三條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ニシテ休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ(疾病ナラハ醫師ノ診斷書ヲ添付シ)願出ツル時ハ詮議ノ上其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 陸海軍ノ兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可シ滿期ノ時ハ原學年ニ復セシム

第二十五條 生徒ノ本分ヲ缺キタルモノハ其ノ輕重ニヨリ謹慎停學又ハ退學ニ處ス

第五章 授業料及入學料

第二十六條 授業料ハ一學年金四拾圓トシ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徵收ス

學期	金額	納付期日
第一學期	金貳拾圓	自四月二十九日 至四月二十九日
第二學期	金貳拾圓	自十月二十九日 至十月二十九日

大正八年九月ニ入學セルモノノ授業料ハ一學年金參拾五圓トシ左ノ二期ニ分チテ之

ヲ徵收ス

第一學期 金貳拾圓

自四月二十九日
至四月二十九日

第二學期 金拾五圓

自十月二十九日
至十月二十九日

第二十七條 轉學又ハ再入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期ニ於テ納付スヘキ分ヨリ之ヲ徵收ス

第二十八條 陸海軍兵役ニ服スルタメ休學ノ許可ヲ得タル者ノ授業料ハ之ヲ徵收セス但學期始業後授業料徵收期日前ニ服役スル者並授業料徵收期日後ニ復校スル者ニ對シテハ其ノ學期ニ於テ納付スヘキ分ヲ徵收ス

第二十九條 退學又ハ除名ノ場合ニ於テモ其ノ學期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十條 休學ヲ許可シ又ハ登校ヲ差止タルトキト雖モ特別ノ規定アル場合ノ外ハ授業料ヲ减免セス

第三十一條 授業料ノ怠納三日以上ニ及フ者ハ其ノ登校ヲ差止メ其ノ怠納十五日以上

ニ及フ者ハ第二十一條第六號ニ依リ除名ス

第三十二條 入學料ハ金參圓トス

第六章 寄宿舎及自修寮

第三十三條 新ニ入學セル本校第一年度生徒ハ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス但自宅通學ノ止ムヲ得サル事情アルモノハ審査ノ上通學ヲ許スコトアルヘシ寄宿スヘキ生徒數所定ノ員數ヲ超過スルトキハ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第三十四條 寄宿生ハ猥リニ退舎スルコトヲ許サス

第三十五條 寄宿生ニシテ疾病ニ罹リタルトキ其ノ種類又ハ症狀ニヨリ期ヲ限り退舎又ハ外泊セシムルコトアルヘシ

第三十六條 寄宿生ハ寄宿料トシテ毎月金壹圓ヲ納付スヘシ但八月ヲ除ク

寄宿料ノ納付期日ハ毎月一日ヨリ七日迄トス但一月四月、及九月ハ十五日迄トス

寄宿料ノ怠納者ニ對シテハ授業料怠納ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十七條 寄宿生ハ毎月七日迄ニ前月分ノ食料ヲ支拂フヘシ

第三十八條 生徒若干名共同シテ一家屋全部ヲ借受ケ自炊ヲナストキハ之ヲ自修寮トナシ相當ノ補助ヲナスコトアルヘシ

第七章 經過 規 程

第三十九條 大正九年九月一日ヨリ大正十年三月三十一日マテハ前六章及本章ノ規定ヲ適用ス但其ノ互ニ抵觸スルモノニツキテハ本章規定ニ依ル

第四十條 學年ハ九月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四十一條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期 九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第二學期 一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第四十二條 冬期休業及春期休業日左ノ如シ但夏期休業ハ之ヲ行ハス

冬期休業 自十二月二十九日 至一月五日

春期休業 自三月十六日 至三月三十一日

第四十三條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號所定ノ高等學校高等科文科及理科トシ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ別表ニ依ル(別表略ス)

第四十四條 大正八年九月ニ入學セルモノ、授業料ハ一學年金貳拾圓五拾錢トシ大正九年九月以後ニ入學セルモノ、授業料ハ一學年金貳拾八圓トシ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徵收ス

學期	金額	納付期日
第一學期	大正八年九月ニ入學セルモノ拾四圓 大正九年九月以後ニ入學セルモノ拾六圓	自九月二十五日 至九月二十九日
第二學期	同 拾圓五拾錢 拾貳圓	自一月二十五日 至一月二十九日

第四十五條 寄宿生ハ寄宿料トシテ毎月金壹圓ヲ納付スヘシ

附則

本學則實施ニ必要ナル規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

生徒心得綱領

本校生徒タルモノハ左ノ條々ヲ體得シ質實剛健ノ氣風ヲ養成スヘシ

- 一 自由自治ノ精神ニ基キ責任ヲ重ンスヘシ
- 一 親愛ノ情ヲ厚ウシ協同ノ實ヲ舉クヘシ
- 一 進取ノ氣象ヲ鍊リ向上ヲ計ルヘシ

細則

一、職制及處務規程

本校ニ於テ職制及處務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 教頭 教授一名ヲ教頭トス
- 一 教頭ハ各課ヲ統ヘテ其ノ事務ヲ監督ス
- 一 教頭ハ校長事故アルトキハ學校長職務規程第二條ニ準シ其ノ事務ヲ代理ス

- 二 校務分課 校務ヲ教務、生徒、圖書及庶務ノ四課ニ分ツ各課ニ課長一名及課員若干名ヲ置キ本校職員ヨリ學校長之ヲ命ス
各課長ハ其ノ課員ヲ統ヘテ其ノ課ノ事務ヲ處理ス
各課長ハ學校長ノ許可ヲ受ケテ其ノ課ニ係及主任ヲ定メ其ノ分掌ヲ定ムルコトヲ得
- 三 教務課 教務課ニ於テハ學科ノ教授及研究ニ關スル事務ヲ處理ス
一 學科目若ハ數學科目ヲ合セテ學課主任ヲ置ク
學科主任ハ其ノ學科目ノ課程及教授ニ關スル事務ヲ處理ス
學科主任ハ處務ニ關シテハ教務課ニ屬ス
- 四 生徒課 生徒課ニ於テハ生徒ノ訓育及監督ニ關スル事務ヲ處理ス
學級及學寮ニ主任ヲ置ク
學級若ハ學寮ノ主任ハ其ノ學級若ハ學寮ニ關スル事務ヲ處理ス
學級若ハ學寮ノ主任ハ生徒課ニ屬ス

- 五 圖書課 圖書課ニ於テハ圖書ノ保管出納及閱覽ニ關スル事務ヲ處理ス
特別教室其ノ他圖書室以外ニ於ケル圖書ノ分掌者ハ其ノ事務ニ關シテハ圖書課ニ屬ス
- 六 庶務課 庶務課ニ於テハ人事文書記録會計用度營繕及雇傭其ノ他一切ノ庶務ニ關スル事務ヲ處理ス
其ノ他ノ課ニ於ケル分管ノ物品文書記録ニ關シテハ其ノ分管者ハ庶務課ニ屬ス
- 七 評議會 教頭、課長及特ニ學校長ヨリ指名シタル評議員ヲ以テ評議會ヲ組織ス
評議會ハ學校長之ヲ招集シ重要ナル事務ニツキテ諮詢ス
評議會ノ議事ハ協議體トス
- 八 教授會 教授及特ニ指名シタル職員ヨリ組織ス
教授會ハ必要アルトキニ學校長之ヲ招集シ其ノ意見ヲ徵ス
- 九 協議會 各課ノ事務ニ關シ必要アルトキハ課外ノ職員ヲ加ヘテ協議會ヲ開ク

協議會ハ教頭或ハ課長ノ請求ニヨリ教頭之ヲ招集ス

二 委任權限 教頭及課長ノ專決ニ屬スヘキ委任權限ハ每學年ノ初メニ之ヲ定ム

委任權限内ノ事務ハ處理ノ後之ヲ學校長ニ報告スヘシ

一一 試驗進級卒業規程

一 每學期一回宛成績考査ノタメ學期試驗ヲ行フ

二 學期試驗時間割ハ試驗開始前一週間以内ニ揭示ヲ以テ告示ス

三 學期試驗以外ニ何レノ學期内ニ在リテモ擔任教官必要ト認メタルトキハ臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ

四 學期試驗ハ其ノ學期内ニ於テ履習シタル課程若クハ其ノ學年中ニ履習シタル課程ニツキコレヲ行フ

五 學科目ニヨリテハ學期試驗ヲ行ハザルコトアルベシ

六 學年ノ途中ニテ授業ノ終了シタル學科目ニアリテハ隨時學期試驗ヲ行フコトアル

ベシ

七 各學科目ノ學期成績評點ハ學期試驗評點ニ平素成績評點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

試驗ヲ缺キタル學科目ノ學期成績ハ平素ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

八 平素成績評點ハ臨時試驗評點日課點及勤惰等ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ臨時試驗ヲ行ハザルモノハ日課點及勤惰ニヨリテ之ヲ定ム

九 學期試驗ヲ行ハザル學科目ノ學期成績評點ハ日課點及勤惰ニヨリテ之ヲ定ム

十 各學科目ノ學年成績評點ハ其ノ學科目ノ第一學期成績評點ト第二學期成績評點トノ合計點數ヲ二分シタル數ヲ以テ之ニアツ

十一 學期成績評點ノ一ヲ缺キタル學科目ノ學年成績評點ハ其ノ學科目ノ他ノ學期成績評點ト其ノ四分ノ一トノ合計點數ヲ二分シタル數ヲ以テ之ニアツ

十二 學期成績評點ヲ缺ク理由ニシテ正當ナラズト認ムル學科目ノ學年成績評點ハ他ノ學期成績評點ノ二分ノ一ヲ以テ之ニアツ

十三 卒業成績ハ各學年修了成績ノ各學科目ノ總計點數ヲ合計シタルモノヲ以テ席次ヲ定ム

十四 各學科目ノ成績評點ハ十點ヲ以テ滿點トシ五點以上ヲ及第トシ四點以下ヲ落第トス

十五 各學年成績ハ各科目五點以上ニシテ平均六點以上ヲ合格トシ進級又ハ卒業セシム但前項ノ規定ニ該當セサルモノト雖モ詮衡ノ上特ニ進級又ハ卒業セシムルコトアルベシ

三 生徒心得

第一條 登校ニハ制服制帽ヲ着用スベシ

第二條 指定ノ場所以外ニ於テハ喫烟スヘカラス

第三條 揭示ヲナサントスルトキハ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 集會ヲ爲サントスルトキハ代表者ヲ定メ日時、目的、場所、費用等ヲ具シテ

前日マテニ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 生徒出版物ヲ發行スルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 金員募集ニハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

○ 遅刻、缺課

一 起立禮ノ終了後ニ入場シタルモノヲ遅刻トス

二 一時間又ハ連續シテ二時間以上缺席シタルトキハ缺課一回トス

○ 諸 届

一 生徒遅刻、缺課又ハ缺席スルトキハ其ノ當日ヨリ三日以内ニ事由ヲ詳記シ學級主任ノ檢印ヲ得テ生徒課ニ届出ツヘシ但シ病氣缺席一週日ニ渉ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

二 忌服ノ爲メ缺席、缺課ハ缺席日數又ハ缺課回數ニ算入セス此場合ニハ前條ト同様ノ手續ヲ經テ生徒課ニ忌服届ヲ差出スヘシ
忌服日數左ノ通り

イ、父母ノ喪ハ七日以内
ロ、祖父母兄弟姉妹ノ喪ハ五日以内
ハ、其他ハ二日以内

四 制服規程

帽子

形式海軍型

地質黒絨若クハ濃紺羅紗

徽章 銀色

白條 細リボン二條(幅二分)

耳釦 眞鍮製(本校徽章入)

腮紐 黒革

服

形式 立襟 背廣

地質 冬服、黒若クハ濃紺(ル又ハ小倉(十月ヨリ五月マテ))

夏服、霜降小倉(六月ヨリ九月マテ)

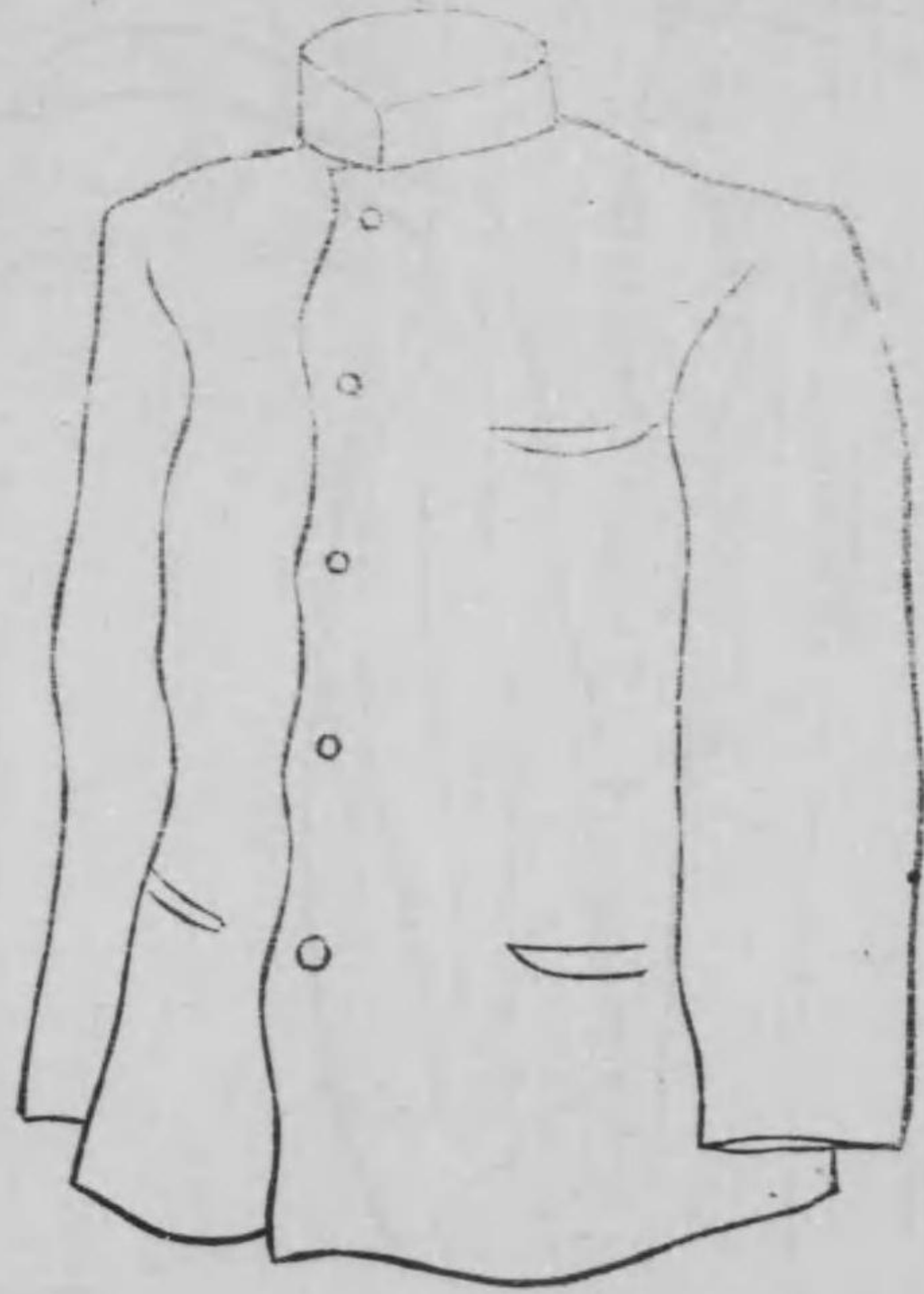
釦 黒煉物徽章入リ

徽章

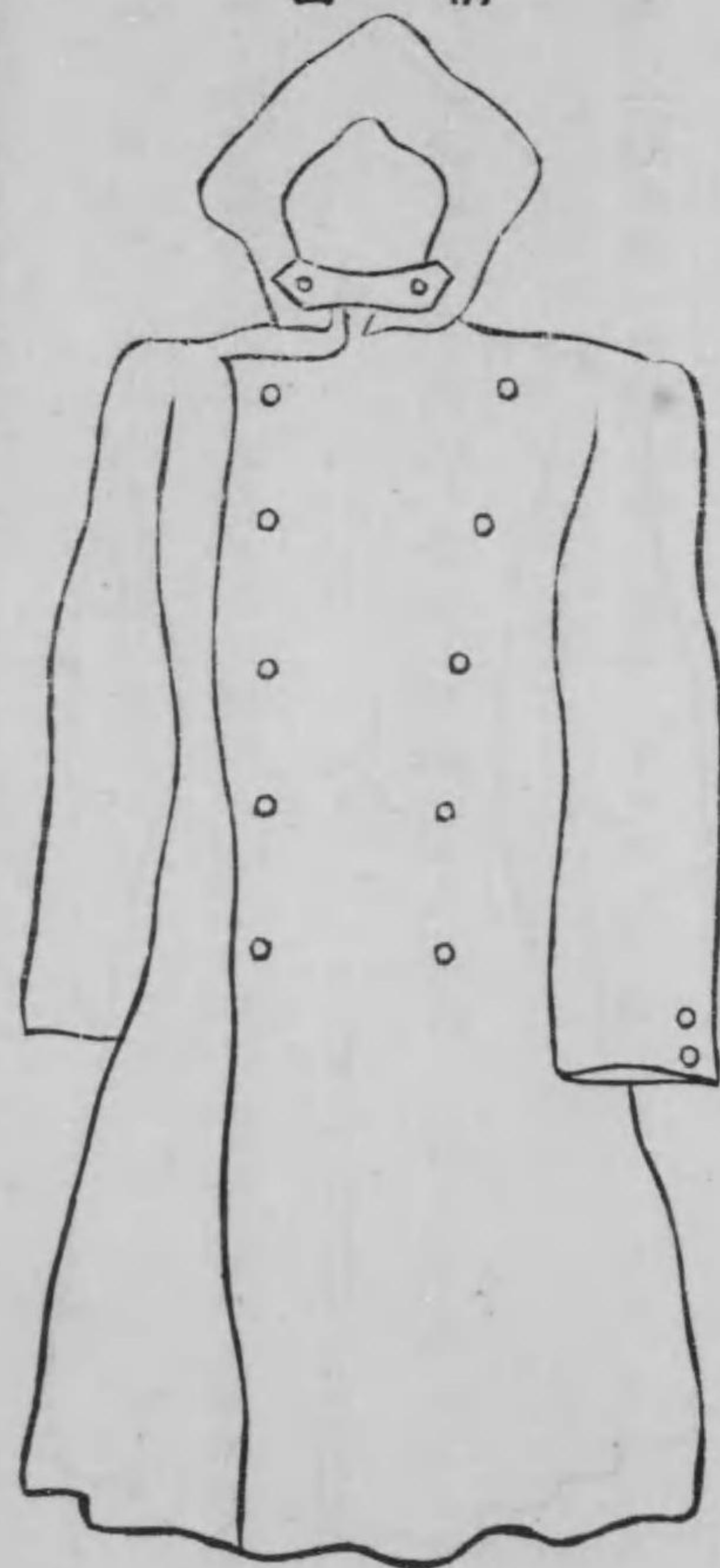


制服

衣面
前



外 套
前 面



外 套
上 靴

茶ズツク短靴

兩 前

形 式
地 質
鈕

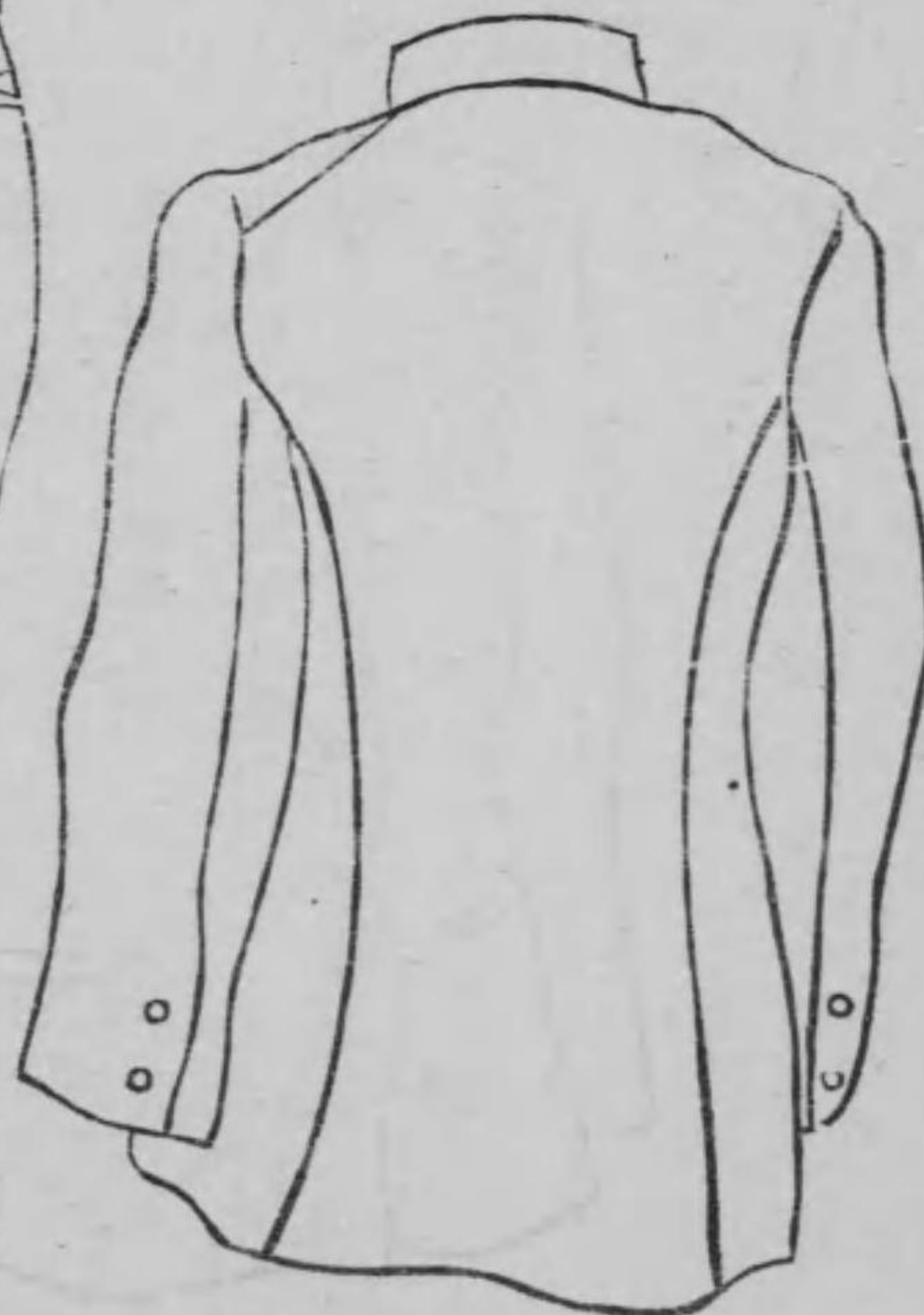
黒若クハ濃紺羅紗

徽章入り黄金色眞鍮鈕

但黒若クハ濃紺羅紗ノマントハ之ヲ代用スルコトヲ得

上 靴
背 面

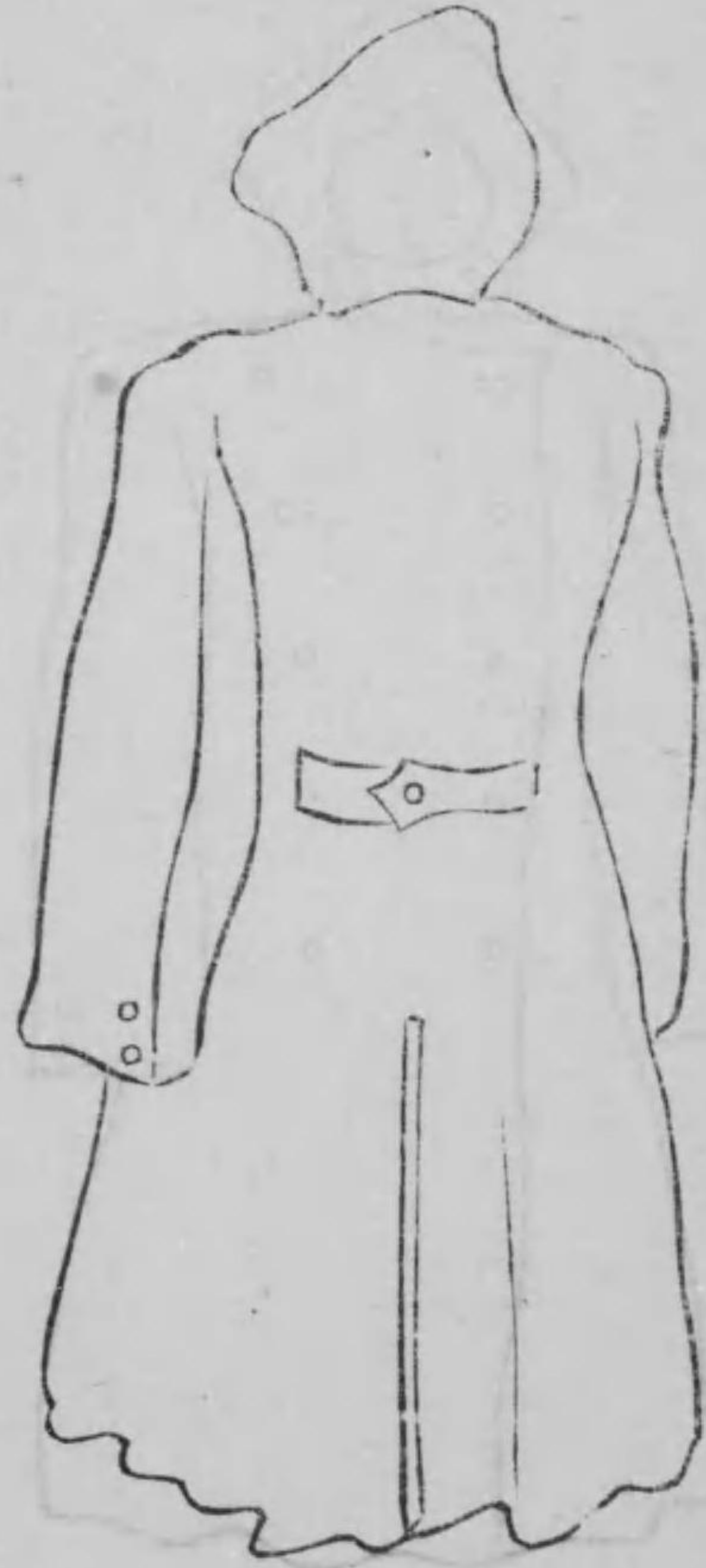
袴



外 靴

短靴又ハ編上(黒革)

面背



略帽

形式

麥莖製普通形(縁約三寸、高約三寸)

鉢卷

黒地(幅約一寸七分)ニ白線二條(幅二分)

徽章ヲ附スヘシ

着用期間ハ夏服用期間ニ同ジ但儀式及肄操ノ時ハ必ず制帽着用ノコト

脚絆

形式

卷脚絆或ハ短靴用卷脚絆

地質

綿布又ハ羅紗黒又ハ濃紺

五 學級總代規程

第一條 各學級ニ正副總代各一名ヲ置ク

第二條 學級總代ハ學級主任ノ指揮ノ下ニ其ノ學級ニ于スル諸般ノ要務ニ任スルモノトス

第三條 學級總代ハ各學級、生徒ノ互選ニ係ル正副各二名ノ候補者ニツキ校長之ヲ任命ス

第四條 學級總代ノ選舉及任命ハ各學年ノ始メニ行ヒ其ノ任期ハ一學年間トス但第一學年ニアリテハ第二學期ノ始メニ行フ

六 通學生規程

- 第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ學級主任ノ承認ヲ經テ宿所届ヲ生徒課ニ差出スヘシ轉宿ノトキ亦同シ
宿所届用紙ハ生徒課ニ於テ交附ス
- 第二條 通學生徒ハ其ノ宿所ノ位置宿主ノ職業家庭ノ狀態又ハ其ノ他ノ事情ニシテ不適當ト認ムル時ハ他ニ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

七 寄宿舍規程

- 第一條 寄宿舍ハ規約ヲ定メ校長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ
規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ
- 一 舍内ノ秩序整頓及風儀ニ關スルコト
 - 一 舍内ノ清潔衛生ニ關スルコト

一 炊事々務炊事監督ニ關スルコト

一 其ノ他必要ナル事項

第二條 各室人員ノ配當ハ生徒監之ヲ定ム

第三條 各寮ニ三名ノ委員ヲ置ク内二名以上ハ二年級以上トス

委員ハ各寮生徒ノ互選ニ係ル六名ノ候補ニツキ生徒監之ヲ任命ス

委員ノ内ヨリ總務及副總務各一名ヲ互選セシム

第四條 各室ニ一名ノ總代ヲ置ク總代ハ其ノ室員ノ互選トス

第五條 總務、副總務、委員及總代ノ任期ハ一學期トス

第六條 總務、副總務及委員ハ生徒間ノ指導ニヨリ舍内整理ノ責ニ任シ規約ノ實行ヲ督勵ス

第七條 寄宿舍ハ門限後其ノ他隨時點檢ヲ受クルモノトス

點檢ノ方法ハ生徒監之ヲ定ム

第八條 外出時限ハ午前六時ヨリ午後十時マテトス（但シ翌日休業ナルトキハ午後十

一時迄トス)

第九條 已ムヲ得サル事情ノタメ所定ノ時限外ニ外出セントスルモノハ豫メ委員ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 外出中已ムヲ得サル事情アリテ歸寮時ニ遅レタルモノハ翌日中委員ニ届出ツヘシ

第十一條 已ムヲ得サル事情アリテ外泊セントスルモノハ豫メ委員ノ承認ヲ得テ寮務係ニ届出ツヘシ

外出中俄ニ外泊セサルヘカラサル事情生シ前項ノ手續キヲナスコト能ハサルトキハ速ニ其ノ事由ト居所トヲ寮務係ニ届出テ歸寮ノ際委員ヲ經テ寮務係ニ届出ツヘシ

八 自修寮規程

第一條 本校生徒ノ相集リテ一家屋全部ヲ借り入レ自炊生活ヲナスモノニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヨリ申出アル時ハ詮議ノ上之ヲ自修寮トナスコトアル可シ

一 七人以上ノ團體ニシテ一ケ年以上繼續ノ見込アルモノ

二 五人若クハ六人ノ團體ニシテ既往二年以上繼續シ成績良好ニシテ尙一ケ年以上繼續ノ見込アルモノ

第二條 自修寮ニ充ツヘキ家屋ハ左ノ各號ニ該當スルコトヲ要ス

一 生徒七人以上ヲ收容シ得ルコト

二 空氣ノ流通飲料水ノ善良ニシテ衛生ニ適シ且料理店等風儀ヲ紊スモノニ余リ近カラサルコト

三 同家屋内ニ他ノ居住人ナク勉學ニ適スルコト

第三條 自修寮ニ對シテハ一人一ケ月金壹圓五拾錢ノ割合ノ金額ヲ補助シ現在人員ニ依リ翌月上旬ニ於テ之ヲ交附ス

第四條 自修寮ニシテ團體員ニ異動アリタルトキハ其ノ氏名ヲ具シ速ニ代表者ヨリ生徒課ニ届出ツ可シ

第五條 第一條第一號ニ依リ設置シタル自修寮ニシテ人員減少スルモ五人以上ナルト

キハ之ヲ繼續ス

自修寮ニシテ人員減少シ五人未滿トナリタルトキハ之ヲ廢止ス

第六條 自修寮ニシテ不都合アリト認ムヘキモノアル時ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ
備考 自修寮ニ收容ス可キ總人員ハ本年ハ二十人ヲ以テ限度トス

九 寮生規約

第一條 吾等寮生ハ本校綱領ニ據リ質實剛健ノ氣風ヲ養成シ以テ校風發揚ノ中心タラ
ンコトヲ期ス

第二條 寄宿舎規程第三條ニヨリ舎内ニ左ノ役員ヲ置ク

總務一名、副總務一名、衛生委員、炊事委員各若干名

第三條 總務ハ委員ノ事務ヲ總理シ副總務ハ總務ヲ補佐ス

衛生委員ハ衛生ニ關シ炊事委員ハ炊事ニ關スル全般ヲ處理スルモノトス

第四條 舎内ノ秩序整頓及風紀ニ關スルコトハ全委員其ノ責ニ任スルモノトス

第五條 委員ハ交互ニ當番委員トナリ舎生ノ點檢ヲナスモノトス

第六條 各室ニ室員互選ニ係ル總代一名ヲ置ク總代ハ各室ノ取締ニ任シ且室員ノ意見
ヲ代表スルモノトス

但シ其ノ任期ハ一學期間トス

第七條 委員及總代ハ特別ノ事情アルモノノ外辭退スルコトヲ得ス

第八條 點檢後歸寮シタルモノハ其ノ時刻及理由ヲ當番委員ニ通知スベシ

第九條 舎生ノ守ルヘキ事項左ノ如シ

- 一 舎則ニ違背セサルコト
- 二 舎生ノ體面ヲ保ツヘキコト
- 三 飲酒セサルコト
- 四 規定ノ時間内ニ於テハ特ニ音讀ヲ禁シ他ノ妨害ナラサル様靜肅ニスヘキコト
- 五 濫リニ他人ノ室ニ立入ラサルコト
- 六 他人ノ安眠ヲ妨ケサルコト

- 七 唾沫、吸殻等ニ由リ室内及廊下ヲ汚穢セサルコト
- 八 外出ノ際ハ必ス制服、制帽又ハ袴ヲ着用スルコト
- 九 外出ノ際ハ自己ノ名札ヲ裏返シ歸寮ノ際ハ之ヲ復スヘキコト
- 一〇 來訪者ノ面會ハ應接室ニ於テナスヘキコト
- 一一 火元ニ注意スルコト
- 一二 總テ器具ヲ紛失シ又ハ破損シタル時ハ辨償スヘキコト
- 一三 室内ノ整頓清潔ニ注意スヘキコト

第十條 食事ニ關スル注意事項

- 一 食堂内ニテハ相當ノ禮儀ヲ守ルヘキコト
- 二 病氣ノ外ハ自室内ニテ食事セサルコト
- 三 食事ハ規定ノ時間ニナスヘキコト
- 四 食事ノ良否ニ關スル事項ハ炊事委員ニ直接申出ツヘキコト
- 五 病氣等ノタメ粥等ヲ希望スルモノハ豫メ炊事委員ニ申出ツヘキコト

六、完全ニ三食ヲ欠食スルコトm日ニ亘ル時ハ豫メ届出テアリタルモノニ限り一日
 定額ノ割合ニテ一日分ノ食費ヲ拂戻スヘシ
 定額ハ物價ノ變動ニヨリ隨時之ヲ定ム

第十一條 以上ノ諸規約ハ今後之ヲ變更セントスル場合ニハ寮生大會ノ決議ヲ經テ生徒監ニ申告シ校長ノ許可ヲ受クヘキモノトス

一〇 寄宿舍警火規程

- 一 寮生ハ登校前各室ノ窓ヲ閉チ火鉢ノ火ヲ良ク灰ニテ掩フヘキコト
- 一 寮生登校後小使又ハ炊事夫各室ヲ巡視シテ前項ノ條件ニ漏レタル個所アラハ前項ノ通りニ處理スヘキコト
- 一 寮務係ハ小使又ハ炊事夫巡視後更ニ巡視スルコト
- 一 寮務係ハ晝食後火氣要心ノ爲メ各室ヲ巡視スルコト
- 一 寮委員ハ點檢ト同時ニ火氣ニ注意シ湯殿、炊事場、各室ヲ巡視スルコト

- 一 寮務係(宿直員)ハ平日ハ午後十時三十分過、翌日休業日ナル時ハ十一時三十分過ニ寮内ヲ巡視スルコト
- 一 寮委員ハ寮日誌ニ毎度ノ巡視状況ヲ記載スヘキコト
- 一 寮内ノ者ハ消火器ノ位置及使用方法ヲ覺エ置クヘキコト

一一 寄宿舍非常手配規程

學校又ハ學校附近ニ火災起リタル場合

- 一 授業時間外ニ於テ學校又ハ學校附近ニ火災起リタル場合ニハ寮務係(宿直員)ノ指揮ニ由リ南北中各寮ニテハ第一室ヨリ第七室迄ノ寮生ハ制服、制帽、靴着用ノ上總務引卒ノ下ニ現場ニ赴キ在校ノ最高級者ノ指揮ニ依リテ行動スルコト
 - 寮務係(宿直員)ハ舍ニ居残り殘留寮生ヲ指揮シテ警火ノ任ニ當ルコト
 - 一 授業時間中ハ校長、教頭若クハ在校ノ上席教官ノ指揮ニ依リ適宜處置スルコト
- 寄宿舍及其附近ニ火災起リタル場合

失火及近火ノ際ニ於ケル處置ハ舍ニ現在スル者ノ臨機ノ取計ヒニ任ス

但シ一般ノ場合ニ於ケル動作ヲ示スコト左ノ如シ

- 一 失火ノ際大事ニ至ラサル前之ヲ消シ止ムルヲ以テ第一ノ目的トス故ニ居合セタルモノハ服裝ノ如何ヲ顧ミス火元ニ駆ケ付ケ諸種ノ手段ヲ盡シテ消防ニ努ムヘシ
- 一 火勢強ク到底消シ止ムルコト能ハサルトキハ各自ノ所有品ヲ舍外安全ノ地ニ持チ出スコト
- 一 近火ノ際ニハ各自隨意ノ行動ヲ執ルコトナク寮務係(宿直員)ノ指揮ヲ受ケテ行動スヘシ

失火ノ際ノ報知規程

- 一 失火ノ際ハ左ノ所ニ即刻報知スルコト
- 一 警 察 (中寮第一室)
- 二 校 長 (北寮第一室)
- 三 生徒監 (南寮第一室)

二 前條ニ割當テラレタル室ノ室代表者ハ室員ヲ指揮シテ其ノ任ヲ果スヘシ
 警察署位置 西堀通 砦谷小路角 電話 八番
 校長住所 南濱通 二番町 電話 三七五番
 生徒監住所 岡部教授(學校町二番町) 原田教授(也町二番町)
 眞保教授(學校町三番町) 乙骨教授(南大畑町四九七)

一一一 圖書ニ關スル規程

- 第一條 本校所有ノ圖書ハ凡テ書庫ニ藏置ス
 第二條 書庫ニハ亦便宜本校ノ借リ受ケタル圖書及他ノ寄託ニ係ル圖書ヲモ保管スルコトアルヘシ
 第三條 擔任事務員ノ外猥ニ書庫ニ入ルコトヲ得ス
 第四條 教官並ニ特ニ校長ノ許可ヲ得タルモノハ必要ノ場合書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得但シ決シテ圖書ノ位置ヲ錯亂スルコトヲ得ズ
 第五條 本校ノ職員及生徒其ノ他校長ヨリ特別ノ許可ヲ得タルモノハ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

コトヲ得

第六條 圖書閱覽室ハ左ノ期間毎日午前八時ヨリ午後九時マデ之ヲ開ク

- 一 四月十一日ヨリ七月二十五日マデ
 - 二 九月六日ヨリ十二月二十四日マデ
 - 三 一月十一日ヨリ三月三十一日マデ
- 但シ

- 一 式日祭日ハ閉室ス
- 二 日曜日ハ午後六時ヨリ午後九時マテ開室ス
- 三 七月十六日ヨリ二十五日マデハ午前八時ヨリ正午マテ開室ス

第七條 前條閱覽室開閉ノ期間及時間ハ臨時變更スルコトアルヘシ其ノ場合ハ揭示ヲ以テ之ヲ豫告ス

第八條 生徒ニシテ閱覽セントスルモノハ學年ノ始毎ニ檢印持參ノ上圖書課ニ就テ閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ

第九條 生徒及特別閱覽者ニシテ圖書ヲ閱覽セントスルモノハ目錄ニツキ其ノ圖書ヲ檢出シ規定ノ用紙ニ一切ノ手續ヲナシ閱覽票ト共ニ掛員ニ差シ出スヘシ但シ時宜ニヨリ閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第十條 閱覽者ハ閱覽了レバ直ニ返納シテ閱覽票還附ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ手續ニヨリ借受セル圖書ハ總テ閱覽室外ニ携出シ又ハ他人ニ轉貸スルコトヲ許サズ

第十二條 閱覽者一人ニシテ一時ニ借覽シ得ヘキ圖書ハ洋裝ノモノ五冊以内、和漢裝ノモノ十冊以内トス但シ圖書課長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

第十三條 生徒ノ研究ニ便スル爲メ參考書ヲ生徒圖書閱覽室ニ備ヘ付ケ第九條ノ手續ヲ要セス自由閱覽ニ供スルコトアルヘシ

第十四條 閱覽票ハ他人ニ轉貸スルヲ得ス

第十五條 閱覽票ヲ紛失シタル時ハ速ニ其ノ旨ヲ圖書課ニ届出テ更ニ交付ヲ請フヘシ

第十六條 各學科主任ハ參考上必要ノ圖書ヲ借受シ之ヲ特別ノ場所ニ備ヘ付ケ其ノ科教官ノ共用ニ供スルコトヲ得、各課長ハ各課ニ於テ事務上必要ノ圖書ヲ借受シ之ヲ課室ニ備ヘ付ケテ使用スルコトヲ得

第十七條 教官ハ本校所藏ノ圖書ヲ參考用トシ一員二十冊其ノ他ノ職員ハ一員五冊ヲ限リ(和漢裝ノモノハ其ノ冊數ヲ倍スルコトヲ得)借受携出スルコトヲ得、但シ必要ニヨリテハ其ノ貸出冊數ヲ増スコトヲ得

第十八條 貴重圖書寄託書借用書並ニ閱覽室備ヘ付ケニ缺クハカラサル圖書等ハ借受携出スルコトヲ得ス、但シ校長ノ特許ヲ得タルモノハ此限リニ非ス

第十九條 圖書ヲ借受携出セントスルモノハ圖書課ニ就キ所定ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 借り受ケタル圖書ハ使用了リタル時ハ速ニ返納スルハ勿論三月五日マテニハ悉皆返納スヘシ、時宜ニヨリテハ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第二十一條 共用借受ノ圖書ニ限リ掛員出張ノ上點檢ヲ行フ

第二十二條 閱覽室ニ備ヘ付ケノ定期刊行ノ雜誌等ニシテ一般的ノモノハ校用ヲ除ク

外到着ノ日ヨリ一週間ヲ過グルニ非ザレバ室外ニ携出スルコトヲ得ス

第二十三條 借受ケタル圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルモノハ會計法規ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ責ニ任ズ

第二十四條 凡テ本規程ニ違反シタルモノハ圖書貸附及閱覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十五條 特別閱覽者ハ圖書課ニ就キ特別閱覽票ノ交附ヲ受クヘシ

第二十六條 參考用トシテ職員生徒ノ閱覽ニ供スル目的ヲ以テ圖書ヲ寄託セントスル

モノハ其ノ著譯者名、圖書名、裝訂別、冊數及見積價格ヲ具シ寄託期限ヲ定メテ校長ノ承諾ヲ受ケ然ル後現品ヲ本校ニ送致スルモノトス本校ハ之ニ對シ保管證ヲ交附ス

第二十七條 火災盜難其ノ他不慮ノ災難ニ依リ寄託圖書ニ損失ヲ來スコトアルモ本校ハ其ノ責ニ任セズ

一三二 物品會計規程施行細則

第一章 總 則

第一條 本校所有ニ屬スル物品ハ學校長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則及文部省直轄各部物品會計規定ニ基キ此細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス但シ備品消耗品ノ種別ハ學校長之ヲ定ム

共用トハ各部ニ於テ共用スルモノヲ云ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ云フ

第三條 各部ニ於テ通常所要ノ物品ハ毎年度始メニ於テ其ノ員數ヲ豫定シ會計掛ニ通報スヘシ

但シ學術用機械標本等ニシテ豫定シ難キモノハ此ノ限リニ非ス

第二章 出 納

第四條 物品ノ出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第五條 通常所要ノ物品ニシテ定數アルモノハ其ノ以內ニ於テ物品會計官吏直ニ之ヲ執行シ臨時所要ノ物品ハ各部ノ請求ニ依リ學校長ノ決裁ヲ受ケ後執行スヘシ

第六條 學術上機械ノ製作及修理ニ特種ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル場合ハ便宜上各部ニ於テ當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國製品等ニシテ見積書ヲ徴スル能ハサルトキハ之カ調書ヲ添付シ)會計掛ニ請求スヘシ

第七條 物品會計官吏ニ於テ受入シタル物品ヲ支給セントスル時ハ普通備品ニアリテハ番號札ヲ現品ニ付シ其用品ト專用品トニ分チ備品支給簿ニ登記シ消耗品ニアリテハ消耗品出納簿ニ登記シタル後之ヲ物品監守者又ハ物品取扱主任者ニ配付シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ領收證書ヲ徴スヘシ

第八條 監守者若クハ取扱主任者ニ於テ物品ヲ受取リタル時ハ備品ニ屬スルモノハ備品監守簿消耗品ニ屬スルモノハ消耗品受拂簿ニ記入スヘシ

第九條 物品ノ不用ニ歸シタルモノアル時ハ直ニ之ヲ會計掛ニ返付スヘシ會計掛ハ其ノ處分案ヲ具シ學校長ノ決裁ヲ經テ處理スヘシ

第三章 保管及監督

第十條 各部受入物品ハ一定ノ場所ニ藏置シ之ヲ毀損シ又ハ紛失セサル様注意スヘシ使用中ノ物品ハ時々修理ヲ要スルモノ、員數ヲ調査シ之カ請求ヲナスヘシ

第十一條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ事項ニ依リ監督スヘシ

- 一 各學期一回以上消耗品支給簿ト現品ト照合スルコト
- 一 毎年一回以上備品支給簿及消耗品支給簿ヲ以テ各部ニ就キ現品ヲ査閲シ且各部ノ監守簿受拂簿ノ調査ヲナシ學校長ニ報告スルコト
- 一 前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シ又ハ其ノ使用上ニ付意見アル時ハ學校長ニ其ノ處理ヲ求ムルコト

第十二條 共用備品ノ監守及消耗品取扱ノ爲各部ニ物品監守者及物品取扱主任者ヲ置ク但シ專用物品ハ各自之ヲ監守シ其ノ責ニ任スヘシ

第十三條 物品ヲ毀損シ又ハ紛失シタル時ハ物品監守者ニ於テ其ノ實況ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ合議ヲ經學校長ノ裁定ヲ得テ責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

第四章 檢 閲

第十四條 學校長ハ物品檢閲委員若干名ヲ設ケテ本校所有品ノ保管及使用ヲ檢閲セシムヘシ

但シ檢閲ヲ分チ定期臨時ノ二種トス

第十五條 定期檢閲ハ毎年六月乃至十月其ノ時日ヲ定メテ之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時之ヲ施行スヘシ

第十六條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ事項左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 物品使用及消費ノ適否
- 一 物品缺損ノ有無
- 一 備品及消耗品ノ支給定數過不足

一 帳簿ト現品トノ對照

第十七條 物品檢閲ノ際ハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シテ檢閲ヲ受クヘシ

第十八條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認ムル時ハ帳簿ニ捺印シテ之ヲ證スヘシ

若シ故障アル時ハ當該責任者ヨリ始末書ヲ差出サシメ處分了ルヲ俟チテ前記ノ手續キヲナスヘシ

第十九條 物品檢閲ヲ終リタル時ハ其ノ顛末ヲ具シ意見ヲ付シテ學校長ニ申報スヘシ

第五章 帳 簿

第二十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

一 物品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ及在庫並ニ使用物品ノ現在ヲ明ニス

第五條 煙突ハ每週所定ノ回數之ヲ掃除シ電燈線及瓦斯栓ニ異狀ヲ發見シタルトキハ直ニ絶緣器ヲ外シ其ノ旨各會社ニ急報スヘシ

第六條 火鉢煖爐等使用中ハ特ニ注意シ終業退廳後又ハ使用後ハ直ニ火氣及灰燼ヲ取除カシメ一定ノ場所ニ於テ之カ處置ヲナスヘシ

一五 宿直心得

第一條 執務時限外ニ生スル事務ヲ處理シ且ツ警備ニ任スル爲メ宿直ヲ置ク

宿直ノ時限左ノ如シ

- 一 平日ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ
- 二 休日ノ晝間ハ昇廳時刻ヨリ退廳時刻マテ及ヒ同夜間ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ但シ寮務係ハ平日ハ退廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ休日ハ昇廳時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

第二條 宿直員ハ書記及事務員以下輪番ヲ以テ擔任スルモノトス但シ其ノ順番ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 第二條以外ノ職員ノ宿直ヲ必要ト認ムル場合ニハ學校長特ニ之ヲ命ス

第四條 宿直員ハ勤務中學校ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條 宿直員ハ其ノ勤務中取扱ヒタル事件ヲ宿直日誌ニ認メ翌日庶務課長ニ申報スヘク若シ翌日休暇ナルトキハ交代ノモノニ必ス事務ノ引繼ヲナシテ退出スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ當ルモノハ宿直ヲ免ス

- 一 出張ノ前日及歸校ノ翌日
 - 二 病氣缺勤中
 - 三 賜暇ノ當日
 - 四 忌引中
 - 五 新任者ハ着任ノ日ヨリ起算シ七日目ニ於テ席次ニ編入ス
 - 六 以上ノ外學校長ニ於テ除直スヘキ必要アリト認メタルトキ
- 第七條 宿直員ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ當日ノ勤務ニ差支アルトキハ同僚ヲ以テ代直ヲ立ツルコトヲ得

第八條 宿直員ハ宿直ノ際庶務課ヨリ左ノ物件ヲ受取ルヘシ

- 一 宿直日誌
- 二 諸室ノ鎖鑰
- 三 職員住所簿
- 四 電信用符號簿
- 五 宿直用郵便切手及發送簿

第九條 宿直員勤務ノ主要事項概テ左ノ如シ

- 一 第八條ノ物件ノ保管ヲナスコト
- 二 校丁ヲ監督シテ校舍内外ノ取締ヲナスコト
- 三 接受シタル物件ヲ處理スルコト
- 四 烈風及變時ニハ特ニ注意シ校舍ノ内外ヲ巡視シ火氣其ノ他火災ノ虞アル器物ノ取締ヲナスコト

第十條 宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲナスヘシ

- 一 親展公文書並職員宛私文書及其ノ他ノ物件ハ翌日夫々之ヲ回付シ電報其ノ他急速ヲ要スト認メ得ヘキモノハ直ニ宛名ノモノニ送達スヘシ
- 二 親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ夫々處理スヘシ
- 第十一條 宿直中非常異變アルトキハ直ニ學校長、教頭、各課長及學校附近所在ノ職員ニ報知シ事急ナルトキハ臨機ノ處置ヲナスヘシ但シ別ニ定ムル非常警備ニ關スル規程ニ準據スヘシ

一六 文書處理及保存規程

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ親展其他特定ノモノヲ除キ庶務課ニ於テ開封シ文書件名簿ニ其件名年月日及發信者ヲ記シ主務課ニ送付シ認印ヲ徵スヘシ

主務課ニ於テハ收受文書ニ收受年月日及課名ノ一字及受付番號ヲ附シ之ヲ處理スヘシ發送文書ニ就テモ亦同シ

番號ハ毎年一月ニ起リ十二月ニ止ム但シ文書ノ完結ニ至ルマテ同一番號ヲ附スヘシ

例規トナルヘキ訓令及通牒等ハ主務課ニ於テ其謄本ヲ作り原本ハ速ニ庶務課ニ返付スヘシ

第二條 收受セル文書ニ就キテハ主務課ハ速ニ起案シ決裁ヲ受クヘシ決裁後ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ其課ニ於テ淨寫校合ノ上回議案ト契印ヲナシ施行年月日、番號ヲ記シ且ツ件名簿ニ記入シ回議案ト共ニ庶務課ニ送付シ官印、校印ノ押捺ヲ求ムヘシ

淨寫及校合者ハ其回議案ニ認印ヲ押捺スヘシ

第三條 數課ニ關係アル文書ハ主務課又ハ其關係最モ多キ課ニ於テ處理案ヲ草シ當該課長ノ決裁後他課ニ合議スヘシ

第四條 文書發達ニ際シ親展又ハ書留郵便、至急電報等特別ノ取扱ヲ要スルモノハ主任者ニ於テ其回議案ニ標記スヘシ

第五條 庶務課ニ於テハ郵便發送ニ係ルモノハ郵便發送簿ニ其宛名、年月日、及其件名ヲ記シ之レカ處理ヲナスヘシ

一 其他學校長ノ指定シタル書類

第六條 使送ニヨル文書ハ各課ニ於テ送付簿ヲ作製シ其宛名、年月日、番號及其件名ヲ記載シテ庶務課ニ送付スヘシ

第七條 左ノ文書ハ主務課長又ハ關係課長限リ處分スヘシ

- 一 生徒在學證明ニ關シ徵兵事務ニ關係ナキモノ
- 一 生徒ノ學業成績證明ニ關スルモノ
- 一 生徒ノ宿所、入退舍及諸届ニ關スルモノ
- 一 物品ノ支給ニ關スルモノ
- 一 一定ノ例規ニヨルモノ

前各號ニシテ其性質重大ト認ムルモノハ此ノ限ニアラス

第八條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主務課ニ於テ接受スヘシ

- 一 教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類
- 一 教官及生徒ヨリ差出ス願届書類
- 一 入學志願者受験名票

第九條 施行濟又ハ閱覽濟文書ニシテ完結ノモノハ主務課ニ於テ種類別ヲナシ該課件名簿ニ記入ノ上之ヲ編纂シ其冊首ニ番號及索引目錄ヲ付シ必要ノ期間當該課ニ保管スヘシ

前項ノ文書ニシテ當該課ニ於テ保管ノ要ナキニ至リタルトキハ之ヲ庶務課ニ引繼シヘシ

第十條 文書ノ保存ヲ區別シテ永年、十年、五年、一年ノ四種トシ其保存スヘキ書目ハ各課ニ於テ學校長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第十一條 會計ニ關スル諸帳簿等ハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 保存期限ノ計算ハ文書完結ノ翌年一月又ハ翌年度ヨリ起算ス

第十三條 保存文書ハ文書完結ノ日ヨリ曆年ヲ以テ分界ス但シ歲入歲出及物品會計ニ關スルモノハ其年度ニ依ル

第十四條 文書ノ保存編次ハ完結ノ前後ニ依リ一事件中ノ文書ノ順番ヲ正シ編綴スヘシ

第十五條 永年保存文書ハ曆年若ハ累年ニ其期限アル文書ハ曆年ニ編綴スヘシ但シ一

年間保存ヲ除ク外ノ文書ハ何レモ其冊首ニ索引目錄ヲ附スヘシ

第十六條 保存文書ニシテ他ノ書目ニ關聯スルモノハ其重キ方ニ編綴シ一方ノ索引ニハ其要旨ヲ記載スヘシ

第十七條 保存期限ヲ經過シタル文書ハ主務課ニ合議シ官印ヲ塗抹シ學校長ノ指揮ニヨリ處分スヘシ

保存期限中ノ文書ニシテ保存ノ必要ナシト認ムルモノ亦前項ニ同シ

第十八條 保存文書ハ庶務課ニ就キ閱覽スヘシ但シ機密文書ハ學校長ノ許可ヲ得タル者ニアラサレハ閱覽スルコトヲ得ス

第十九條 保存文書ノ借覽ヲ要スル者ハ三日以内ノ期限ヲ以テ庶務課備付ノ貸附簿ニ書目、番號、氏名ヲ記載シ捺印スヘシ

第二十條 本規程ニ依リ難キモノハ特ニ學校長ノ許可ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

職員

學校長

文學士 八田三喜 石川

教授

數學

數學科主任

理學士 松井喜三郎 神奈川

在外研究員

物理

物理科主任

文學士 橫山良盛 宮崎

圖書

圖書科主任

理學士 田中務 福岡

哲學、科學概論

哲學科主任

文學士 宮本和吉 山形

法制經濟、英語

法制經濟科主任

文學士 十倉精一 和歌山

植物自然科學

動物、地質礦物科主任

理學士 眞保一輔 新潟

修身

英語科主任

文學士 岡部龍立 富山

英語

歷史、地理科主任

文學士 日野月明喜 愛媛

歷史、國語

歷史、地理科主任

文學士 安藤祐專 愛知

漢文、歷史

國語、漢文科主任

漢文

文學士 鳥山喜一 東京

化學

化學科主任

理學士 手塚良道 愛知

英語

文學士 田村明一 高知

地理、歷史

文學士 乙骨五郎 東京

國語

文學士 原田莊一 山口

獨逸語

獨逸語科主任

文學士 原田虎男 東京

心理、英語

文學士 關泰祐 東京

論理、獨逸語

文學士 黑田亮 新潟

物理、力學

理學士 小林惇 福島

助教授

英語

陸軍步兵伍長 酒井千尋 新潟

講師(就職順)

體操

陸軍步兵大尉 脇田鏡一郎 新潟

陸軍歩兵特務曹長

(米國プリンストン大學)
マスター、オツアアツ

高橋儀三郎

秋田

廣政幸助

山口

池田作次郎

新潟

新潟地方裁判所
判事法學士

窪田幹太

岡山

文學士

朝日方圓

福井

ヨセフ、デイトリツヒ

獨逸

文學士

西田正一

廣島

理學士

甲斐三郎

東京

理學士

小林文平

新潟

理學士

德重英助

福岡

新潟師範學校教諭

諸橋政範

新潟

書記

物品會計官吏

佐藤東

新潟

稻川喜一郎

新潟

體操

英語

動物

法制

獨逸語

獨逸語

獨逸語

數學

化學

地質礦物、地理

圖書

雇 (就職順)

(兼)助教授

酒井千尋

新潟

陸軍歩兵軍曹

小山徳吉

新潟

小池市太郎

新潟

丸山繁多

新潟

林英一

新潟

青山ヒナ

新潟

入山隆

新潟

相澤義美

福島

野崎壽

新潟

田澤時四郎

新潟

化學教室勤務

動植物教室勤務

學校醫

新潟醫學專門學校教授
醫學博士

澤田敬義

新潟

○學級主任

文科第一學年甲類、同科第二學年乙類、同科第三學年甲類

教授 原田莊一

文科第一學年乙類、理科第二學年甲類、文科第三學年乙類

教授 岡部龍玄

理科第一學年甲類、文科第二學年甲類、理科第三學年甲類

教授 乙骨五郎

理科第一學年乙類、理科第二學年乙類、理科第三學年乙類

教授 眞保一輔

○事務分課

教頭

教授 松井喜三郎

教務課

教授 安藤祐專

書務課主任 小山徳吉

課長

生徒課

生徒監

教授 岡部龍玄

生徒監

教授 眞保一輔

生徒監

教授 乙骨五郎

生徒監

教授 原田莊一

雇 生徒課主任 入山 隆

雇 寮務係主任 丸山 繁多

圖書課

課長

教授 手塚良道

助教兼書記 酒井千尋

雇 圖書課主任 林英一

庶務課

課長

教授 十倉精一

會計主任 佐藤 束

前職員

前官職	轉退年月	摘要	出身	姓名
兼文部書記	自太正八年四月	免兼官	文部	佐原茂一
兼文部書記	自太正八年十一月	轉任	文部	田中鶴之助
講師	自大正八年五月	解職	新潟醫學專門學校助教授	田邊良平
講師	自大正八年七月	解職	新潟師範學校教諭	福岡正治
講師	自大正九年八月	解職	新潟地方裁判所部長	三上節造
事務員	自大正九年七月	退職		遠藤誠
事務員	自大正八年十一月	退職		三堀兵五郎
事務員	自大正八年六月	退職		日野田恭平

書務主任 稻川喜一郎
 書記 小池市太郎
 雇 田澤時四郎
 雇 青山ヒナ

生徒氏名 (ABC順)

文科第三學年甲類

出身中學 氏名 原籍

三條 長谷川定雄 新潟

三條 石田友作 新潟

出身中學 氏名 原籍

新潟 八田健次 新潟

新潟 市川壽平 新潟

事務員	講師	教授	講師	講師	教授	講師	講師
自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月	自大正九年三月
解職	解職	解職	解職	解職	解職	解職	解職
田口慎二	パウ、ヘルマン	高橋里美	西垣維新	高橋二	高橋二	小田亮平	高橋二
末松四郎							

海城	岩淵	止	新潟	柏崎	井利忠憲	新潟
赤坂	片岡孔一	東京	山形	菊地憲太郎	山形	
愛知	木村友則	愛知	福島	清野清之輔	福島	
新潟	小林利策	新潟	新潟	小林敏彌	新潟	
東三	古口義郎	栃木	撫養	近藤芳一	徳島	
鹿一	益子有文	栃木	榛原	村上慶之	静岡	
高田	村山紀一郎	高田	長岡	村岡武夫	群馬	
新潟	長濱義之	新潟	東三	中兼謙吉	埼玉	
太田	中村三二	群馬	長岡	中澤久範	新潟	
柏崎	根津耕史	新潟	村上	野村健藏	新潟	
横一	生松	淨	新潟	岡省三	新潟	
柏崎	大島順一	新潟	大館	小田島庄司	秋田	
水戸	瀨木直次	神奈川	新發田	關根梁應	新潟	

文科第三學年乙類

新潟	篠田榮三郎	新潟	卷	竹内富治	新潟
東三	千葉胤次	東京	三條	渡邊徳次	新潟
新潟	吉田澄夫	新潟	會津	荒井實	福島
金二	相川規久雄	石川	京華	不破祐俊	東京
佐渡	伴雄一	北海道	佐渡	本間末雄	新潟
甲府	林孝平	山梨	豊山	星野俊英	新潟
新潟	本多尙馬	新潟	村上	若林賢英	新潟
佐渡	藤川忠治	新潟	相馬	菅野茂	福島
糸魚川	岩崎航介	新潟	新潟	古山利雄	新潟
東一	川口順一郎	東京	高田	小川東造	新潟
會津	齋藤博	福島	福島	坂本房治	福島
海城	齋藤紫郎	東京			

東一	志賀隆雄	福島	三條	菅屋	豐	新潟
同志社	鈴木光錄	新潟	小千谷	田村乙止	新潟	
新潟	田中市助	新潟	富山	瓜谷惠治	北海道	
大館	山田定雄	新潟	廣島	山縣	尚	廣島
會津	弓田瑞穂	福島				

文科第二學年甲類

上田	赤羽良一	長野	長岡	羽賀行藏	新潟	
新潟	八田元夫	石川	卷	平野仁太郎	新潟	
今宮	平田五郎	新潟	開成	堀江武男	靜岡	
村上	細野龜一郎	新潟	柏崎	藤井尚三	新潟	
相馬	井戸川森治	福島	日川	飯島輝	山形	
中津	遠入孝	大分	新潟	木村芳夫	新潟	
臺北	木村義臣	三重	都留	小林直衛	山梨	

順天	近藤季之助	東京	柏崎	小杉總一朗	新潟	
會津	小山茂	福島	小千谷	倉持武平	茨城	
高二	南益次郎	高知	京華	峯村丈樹	長野	
高田	村山伊之助	新潟	開成	永倉彌之助	栃木	
關西	中井一郎	岡山	新潟	中野尙夫	新潟	
高岡	西脇周祐	富山	愛一	丹羽端	愛知	
龍野	岡田總一	兵庫	米澤	西海枝芳男	山形	
村上	佐藤雄太郎	新潟	豐山	澤田久雄	北海道	
村上	關根慎吾	新潟	天理	島田利長	奈良	
東師附	竹内誠	新潟	京華	都倉一男	神奈川	
村上	鳥居重雄	新潟	日川	渡邊潛龍	山梨	
熊谷	山岸健治	埼玉	長岡	山口諭助	新潟	
會津	柳澤良衛	福島	天王寺	八十島幸二	福井	

文科第二學年乙類

海城	有田芳郎	東京	村上	荒井二郎	新潟
新潟	早山洪二郎	新潟	大成	福富恒二	富山
新潟	古島濟	新潟	會津	藤原肇	福島
佐原	飯田謹樹	千葉	宇佐	石田中人	大分
開成	板橋倫行	東京	仙二	岩井忠一	山形
野澤	神津丈三郎	長野	金川	金田英雄	岡山
麻布	片岡雄三郎	東京	函館	小柳朔治	北海道
郁文館	前橋武平	栃木	會津	松崎誠	福島
新潟	森一郎	新潟	佐波	長井一男	新潟
日本	長谷源四郎	愛知	神戶一	仲忠一	兵庫
津山	中田敏夫	岡山	成蹊	仁井田秀穗	福島
芝	小原一彦	秋田	諏訪	小河原忠雄	長野

文科第一學年甲類

柏崎	押見文治郎	新潟	早稻田	大竹勳	東京
關西	齋藤梧市	新潟	新潟	坂井丈七郎	新潟
長岡	佐藤行雄	新潟	三條	清水行兵衛	新潟
愛二師	多田收	愛知	長岡	高橋正己	新潟
新發田	竹内淳二	新潟	樺太	筒井秋水	高知
長岡	牛木雄治	新潟	新潟	山崎伶吉	新潟
莊内	横山知義	山形			
文科第一學年甲類					
新潟	阿部藤策	新潟	新潟	秋山次男	京都
新潟	青池茂	新潟	京華	淺田和	東京
磐城	濱島正金	福島	同志社	藤井元一	山形
麻布	福井利一	神奈川	錦城	井田徳治	埼玉
村上	五十嵐祐宏	新潟	釧路	伊藤郷一	北海道

高田	柿村敬二	新潟	小松	角出正則	石川
東三	加藤爲吉	埼玉	高田	籠島武	新潟
東三	笠原文衛	東京	新潟	金井重男	新潟
新發田	上林直介	新潟	福井	城戸旭	福井
長岡	小出義雄	新潟	成溪	松田壽男	東京
新瀉	松村莊輪	新潟	赤坂	松坂政文	京都
佐渡	中川文雄	新潟	榎太	長崎久人	高知
柏崎	根立清	新潟	東三	野尻哲二	東京
三條	齋藤忠	新潟	新潟	齋藤謙	新潟
新潟	齋藤市作	新潟	新潟	三條善郎	新潟
新潟	佐藤弘三	新潟	水戸	佐藤寅佐武朗	新潟
新潟	曾我重郎	新潟	三條	高橋清	新潟
安房	瀧口龍雄	千葉	新發田	宇尾野淳	新潟

文科第一學年乙類

長岡	山田義民	新潟	小千谷	山本道夫	新潟
福師	結城司郎次	福島	東一	日下謙吉	東京
秋田	阿部吉郎	秋田	卷	荒川萬壽夫	新潟
開成	福田武雄	東京	十村松	蓮池公咲	新潟
今宮	樋口孝三郎	大阪	桐生	平山垣	岩手
早稻田	板倉豐	静岡	小千谷	市橋次郎	新潟
畝傍	石川英助	奈良	村上	加藤七郎	新潟
新潟	木村善也	新潟	長岡	清澤彰英	新潟
新潟	小林秀武	新潟	立教	古市利正	千葉
東一	久能六郎	東京	飯山	桑原秋雄	長野
新潟	眞島勝郎	新潟	前橋	松井卯一	群馬
新潟	松田安懷	栃木	新潟	森二郎	新潟

京北	長澤九二三	東京	宇都宮	永倉德四郎	栃木
順天	中村一郎	東京	都留	中村	山梨
膳所	南部喜三矩	滋賀	新湯	佐々健次	新湯
芝	關根小麓	新湯	磐城	鈴木道夫	福島
太田原	高橋四郎	栃木	開成	高梨小一郎	千葉
高崎	田中三郎	群馬	新湯	田中甲一	新湯
旅順	田中精一	新湯	卷	豐原道也	新湯
佐野	内田實	栃木	高一	山崎好道	高知
新湯	鈴木昇	新湯	神戶二	井上延	兵庫
京華	伊藤宏	千葉	長崎	松尾茂雄	長崎
理科第三學年甲類			東四	安藝皎一	徳島
又村松	相田英三郎	新湯	又村松	羽田清次	新湯
磯波	五島甚之助	富山			

市岡	林芳樹	滋賀	三條	廣川憲二郎	新湯
長岡	堀裕	新湯	新湯	藤井雄之助	新湯
三條	藤崎誠司	新湯	新湯	古川一郎	新湯
天王寺	市川涓策	新湯	新湯	飯村次雄	新湯
新湯	芋川郁平	新湯	金澤二	河合義銓	富山
三條	小林小三郎	新湯	長岡	三浦久衛	新湯
新湯	長野昌隆	新湯	三重四	中田孝次	三重
新湯	佐藤卯三郎	新湯	又村松	佐藤與一郎	新湯
又村松	澤井淳	新湯	旅順	澁谷雄一郎	新湯
新湯	霜島芳三	新湯	新湯	正野亮	新湯
新湯	住木諭介	新湯	長岡	高橋榮一	新湯
新發田	高澤十三郎	新湯	新湯	竹内節之助	新湯
新湯	富澤精司	新湯	三條	八百枝清	新湯

新潟 吉澤英雄 新潟

理科第三學年乙類

新潟 阿部信介 新潟

小千谷 星野宏 新潟

新潟 河邊昌一 新潟

熊谷 小林盈藏 埼玉

安積 國岡恭一 福島

新潟 南正夫 新潟

高田 水野勝次 新潟

佐渡 中村彦左衛門 新潟

三條 佐藤隆二 新潟

京華 杉崎陽 新潟

新潟 豐島順二郎 新潟

成蹊 堀内信長 長野

沖繩一 神谷榮進 沖繩

新潟 小林榮太郎 新潟

盛岡 金野巖 岩手

北野 增澤浩 新潟

長岡 宮田正昭 新潟

東師附 諸橋十郎 新潟

横須賀 榊原賢三 神奈川

三條 瀨高德榮 新潟

X村松 田代芳郎 新潟

京北 植木吉禪 新潟

獨協

山本孝介 神奈川

理科第二學年甲類

東三 權田一郎 埼玉

新潟 廣橋敏 新潟

村上 稻葉榮 新潟

東三 神谷茂數 東京

村上 桂近平 新潟

東一 小林進 長野

開成 小坂立夫 東京

糸魚川 中村慶三郎 新潟

新潟 小原武一郎 新潟

高田 櫻井莊三 長野

京二 仙波正雄 東京

松江 原道則 島根

佐渡 本間利 新潟

旅順 市川秀一 新潟

順天 菅野紀一 福島

Y村松 川井善真 新潟

東三 古作捨夫 新潟

小千谷 目黒雄平 新潟

新潟 西枝一江 新潟

斐太 岡野定忠 石川

新潟 里村太仁 新潟

長岡 仙波猛 東京

新 薄田正知 新潟
 京北 田村壽一郎 新潟
 東四 友成 晃 静岡
 東三 氏家泰一 東京
 新 鎗居修三 高知

新 高山市松 新潟
 新 田中重朗 新潟
 米澤 上野義雄 山形
 長岡 渡邊真治 新潟

理科第二學年乙類

東一 新井俊五郎 兵庫
 新 本間敏男 新潟
 三條 池田二男 新潟
 長岡 稻川寬之助 新潟
 長岡 樺澤 巖 新潟
 盛岡 木村圭一 岩手
 卷 古寺金剛 新潟

新 安宅洪芮 新潟
 新 家坂直清 新潟
 獨協 生島 順 埼玉
 小千谷 市村保治 新潟
 新 川田達彌 新潟
 又 村松 毅 新潟
 長野 丸山吉夫 長野

卷 松原 祐 新潟
 新 水戸尙二 新潟
 富山 宮田與三吉 富山
 東一 大坪潔己 東京
 新 坂井 弘 新潟
 長岡 鈴木 博 新潟
 新 高山登嶺夫 新潟
 佐野 豐田正四 栃木
 獨協 内海 弘 神奈川
 新 若井富治 新潟
 三條 渡邊悌二 新潟
 開成 吉田誠一 新潟

理科第一學年甲類

長岡 目黒長英 新潟
 新 皆川 博 新潟
 東一 大野 薰 東京
 會津 齋藤俊一郎 福島
 新 佐藤 乾 北海道
 東二 鈴木 寬 神奈川
 東二 竹内 實 東京
 〇 大多喜 東條錦平 千葉
 新 若林佐門 新潟
 三條 渡邊達三郎 新潟
 斐太 山崎廉三 岐阜

京華	安館菊三	東京	佐渡	藍原權次	新潟
新潟	淺野博	新潟	新潟	伴茂	新潟
鳥取	惠美須良治	鳥取	松本	原善平	長野
新潟	長谷川三郎	新潟	會津	廣岡東一郎	千葉
人村松	樋口丑男	新潟	長岡	星名陽一	新潟
新發田	五十嵐真作	新潟	新潟	伊藤惣衛	新潟
新潟	金子 柁	新潟	臺南	金子南瀧	新潟
上田	金澤重一郎	長野	村上	沓掛 壽	新潟
新潟	増田義一	新潟	三條	皆川豊作	新潟
長岡	名兒耶馨	新潟	長岡	中野修二	新潟
樺太	野崎秀英	北海道	三條	岡三郎	岡山
長野	大島弘	長野	新潟	大谷鐘五	新潟
新潟	笹川純一	新潟	三條	笹岡康男	新潟

理科第一學年乙類

新潟	佐藤謙吉	新潟	東三	瀬戸尙二	東京
開成	田口柳三郎	東京	新潟	高橋貞吉	山梨
新潟	田代美雄	新潟	新潟	寺田哲四郎	新潟
高田	時田吉雄	秋田	龍野	富井美藏	兵庫
新發田	渡部重勝	新潟	卷	渡邊貞雄	新潟
新發田	小笠原萬龜三郎	新潟	高田	山田正盛	新潟
長岡	山崎鍛治	新潟	磐城	吉田忠衛	福島
宮一	後藤拙郎	宮城	新潟	濱松辰太郎	新潟
新潟	林不二男	新潟	新潟	樋浦治一	新潟
新潟	福原武	新潟	新潟	池田苗夫	滋賀
仙二	今井健郎	宮城	三條	今井知文	新潟
柏崎	磯部誠之助	北海道	三條	岩田正三	新潟
長岡	金井朋中	新潟	斐太	金井武夫	岐阜

新潟	唐津	英作	新潟	新潟	片桐	仁禮	長野
長岡	木原	進一	新潟	三條	小島	潔	新潟
新發田	小島	繁四郎	新潟	栃木	前原	恒二	栃木
新潟	丸山	和雄	新潟	新潟	松井	達夫	新潟
〇大喜	深山	憲一郎	千葉	長岡	元井	昌一	新潟
新潟	中林	吉彌	新潟	新潟	中山	博	新潟
會津	岡田	潤一郎	新潟	東二	小柳	悌二郎	新潟
新潟	霜鳥	重吾	新潟	長岡	多田	忠雄	新潟
熊谷	高橋	貞三郎	埼玉	長岡	高橋	秀夫	新潟
新發田	高橋	辰治	新潟	三條	高田	規矩男	新潟
新發田	田中	宗平	新潟	東一	渡邊	啓一	東京
卷	遠藤	清之	新潟	佐渡	井上	竹千代	新潟
新潟	山口	亮松	新潟	愛三	山内	則之	愛知
新潟	米谷	俊雄	新潟	柏崎	伊藤	俊男	新潟

第一回入學式訓示

生徒諸子。諸子ハ受験生約七百名カラ選抜サレタ百六十名デアアル。之ハ從來教育ヲ受ケタ學校ノ先生ノ恩ヤ、多年教養ヲ辱クシタ親ノ慈悲ノ賜デアアルガ、諸子ガ平素努力ノ効モ亦與ツテ力アツタノデ、誠ニ御日出度。私ガ諸子ニ要求セント思フコトハ簡單デアアル。諸子ハ小學校カラ中學校ヲ通シテ十年以上、毎週修身ノ教授ヲ受ケテ來タノダカラ、國民道德ノ大義名分モ、實踐道德ノ細節マデ熟知シテ居ル筈デアツテ、私ハ今更之ヲ説クノ必要ヲ認メヌ。生徒諸子。説クノ必要ヲ認メヌトイフノハ、國民道德ノ大義名分ヤ、實踐道德ノ細節ガ必要デナイトイフノデハナク、諸子ハ充分ニ熟知シテ居ル筈デアリ、亦實行出來テバナラヌト思フカラデアアル。若夫ガナク亦出來ズトアツテハ諸子ガ受ケテ來タ過去十餘年ノ教育ガ無力デアツタカ、但ハ諸子自身ガ眞面目ニ受ケテ來ナカツタトイハチバナラヌ。私ハ明治カラ大正ニ亘ツテノ教育ガ其様ニ無力ナ教育デハナイト思フシ、亦諸子ガ其様ナ不眞面目トハ信ゼラレヌ。夫デアアルカラ

説クヲ要セストイフノデアル。唯諸子ガ私ノ管理スル學校デ三年間ヲ費サネバナラヌ當面ノ生活ニ最適切ナ徳ヲ示シテ置クニ止マルノデアル。即簡單ニ質實剛健ノ徳ヲ要求スルノデアル。

生徒諸子。質實剛健ノ字義ハ明白デアル。内ニ心身ノ實力ヲ充タシテ、外ニ事ニ當ツテ屈セズ息マズ爲シ遂グルカライフノデアル。夫デ此徳ヲ要求スル理由ハ二ツアル。第一ハ、人生ヲ一年ニ喩ヘルト、諸子ハ正ニ春酣ナル時代デアツテ、之カラ盛夏ノ炎熱ヲモ凌ギ落莫タル秋風ニモ耐ヘテ、冬嶺ニ秀ツル松柏ノ晩節ヲ全ウシテ人生ヲ終ルノ實力ヲ大成セネバナラヌ時期ニアルカラデアル。之ハ諸子ノ状態カライツタノデアルガ、第二ノ理由ハ我國家ノ現状カラデアル。時ハ丁度宇内ノ大戰亂ヲ了ツテ、列國ガ戦後ノ建テ直シニ競争スル時期デアル。

生徒諸子。此大戰亂ハ我々ニ如何ナル教訓ヲ與ヘタカ。歲月ヲ閱ミスルコト五年、軍ヲ動カスコト四千萬、人ヲ殺スコト七百餘萬、不具者ヲ出スコト五百餘萬、シテ財ヲ費スコト四千億圓デ、文字通ニ未曾有ノ大戰亂デアツタ。人ハ未經験ノ大事件ニ出會

フト、世ノ中ハ大ニ變革スルモノト豫期シ易イモノデアツテ、或ハ宇内永久ノ平和ガ之ニヨツテ定マルト思ツタ人モ多カッタ。成程歴史アツテカラノ大戰亂デアルカラ、我々ノ一生ニ取ツテノ大事件デアルガ、之ヲ社會ヤ國家ノ様ナ千年萬年デ數ヘル生命ヲ有ツテ居テ、其ノ間ニ進化發展シテ居ルモノカラ見タラ、高ガ知レタ四五千萬ノ人類ガ五年間、地球表面ノ一部デ地團蹶踏ンデ見タカラトテ、夫デ此ノ千年萬年ノ生命アル社會ヤ國家ニ於ケル人類ノ生存競争ノ大原則ヲ引續リ返ス丈ノ力ガ何ウシテ出ヨウゾ。イヤ此戦争ダツテ其ノ大原則ノ一例證ニシカ過キヌト見ルガ却ツテ正シイノデアル。私ハ此ノ戦争ノ最初カラ言ツテ居ル言ガアル。獨逸ノ軍國主義ヲ打破スルノハ結構デアルガ、之レヲ打破シテ力ハ何デアルカ。獨逸ガ軍國主義ナラ、之レニ對シテ居ル英國ハ海國主義デハナイカ。論ヨリ證據、五年後ニ出來タ國際聯盟ハ、負ケタ獨逸ノ兵力ヲ制限シタマデ、勝ツタ英米ノ海軍擴張ニハ何ノ制限ヲモ與ヘテ居ラヌ。弱イ民族ニ對シテ自決ノ名ヲ與ヘナガラ、堂々タル人種問題ヲ見事ニ拒絶シテ居ルデハナイカ。歸スル處民族國家ノ強力ノ競争ニシカ過ギヌ。勿論兵力ニノミヨル目前ノ

強力ヲ考ヘテ居ツタ軍國主義コソ失敗ニ歸シタガ、民族國家ノ文化ノ實力ヲ以テ競争シテル根本ノ事實ハ、此大戦亂ノ前後デ何ニモ變ツテ居ラヌ。イヤ變ツテ居ラヌ丈ケデハナク益激シクナツテ來テ居ル。ソレヤ宇内ノ永久平和ハ誠ニ結構ナコトデ、私モ之ヲ希望スルコトハ人ニ負ケヌ積ダガ、之ハ一二民族ノ強力デ世界ニ永久平和ヲ押賣リシテ居ル様ナ現代ニハ到底望マレヌコトデアツテ、各民族ノ權利丈ガ對等ニ認メラルルノミデナク、其ノ認メラルベキ民族ノ文化ノ程度ガ、自然ニ世界文化ノ普及ニヨツテ相近ヅイテ、經濟ノ上ニモ、政治ノ上ニモ、學術ノ上ニモ、信仰ノ上ニモ、道德ノ上ニモ相近ヅイテ來テカラデナケレバナラヌ。今日ノ様ニ人ガ旅ヲスルニモ、品物ヲ送ルニモ、文化ヤ經濟ノ差ノ爲ニ、國境ニ關所ガアツテ、ヤツト民族ヤ國家ノ安寧幸福ヲ維持シテ居ル様ナ時代ニハトモ出來ナイノデアアル。夫デアアルカラ永久ノ平和ガ得タクバ、民族自身ノ實力ヲ進メテ、而カモ其ノ餘榮ヲ相互ニ他ニモ普及スルノニ客デナイ様ニ、文化ノ實力ヲ養成シテ行ク以外ニ途ハナイノデアアル。生徒諸子。我帝國ノ歴史ハ誠ニ結構デアツテ、我々ハ日本帝國ノ臣民ニ生レタノヲ人生ノ光榮ト信ジ

テ居ルガ、サテ翻ツテ今日ノ國運ヲ世界ノ文運ノ上ニ較ベテ見タラ、果シテ如何デア
ルカ。生徒諸子。私ガ諸子ニ質實剛健ノ徳ヲ要求スルノハ實ニ此點ニアルノデアツテ
諸子ノ任亦重クテ、道ハ遠イノデアアル。

生徒諸子。諸子ハ此徳ヲ修養スルニ如何ナル方法ニヨラントスルカ。諸子ニハ夫々考
案モ思ヒ浮ンデ居ラウガ、私ハ諸子ノ現狀カラ考ヘテ、自由、進取、信愛ノ三方法ニ
ヨランコトヲ勸メルノデアアル。

自由トハ何ノコトカ。行フコトガ自分ノ意志ノ通ニ達セラレテ少シモ障礙ノ無イノヲ
自由トイフノデアアル。世ニハ意志ノ通ニ達セラル、コトヲ誤解シテ、何ンデモ自分ノ
意志ノ通ニ行ヘバ必ズ達セラル、ト考ヘテ居ル幼稚ナ者ガアルガ、夫ハ我儘デアツテ
自由デハナイ。意志ノ通ニ行ガ達セラル。ニハ必ズ其丈ノ理由ガナケレバナラヌ。意
志ガ達セラル、ニハ、其ノ意志ノ決斷ニ其丈ノ原因ガアツテ、其ノ原因ヲ與フルノハ
完全ナ思慮デアリ、完全ナ思慮ハ正確ナ理性ノ働ニ待タチバナラヌ。
生徒諸子。正確ナ理性ガ働イテ思慮ガ完全ニナリ、思慮ガ完全デアアルカラ決斷ガ固ク

ナリ、從ツテ行フ事ガ意志通ニ達セラレ、夫ヲ行ツタ事ニ對シテ責任ガ重ク加ハツテ來ルノデアアル。生徒諸子。理性ノ發達セナイ子供ヤ理性ノ乏イ動物ニハ責任ガナク、從ツテ自由ガナイノモ此故デアアル。生徒諸子。諸子ハ自分ノ精神ノ發達ノ程度ヲ省ルガヨイ。諸子ノ智能ハ單純ナ記憶全盛ノ時代ハ過ぎ去ツテ、今ヤ理性ノ發達期ニ來テ居ルノデアアル。此時期ニ理性ヲ正確ニ働カス機ニ努力セズ、又出來ヌ機ナ事ガアツテハ何ウシテ將來ノ大成ヲ期セラレヨウカ。生徒諸子。諸子ハ何事ヲ爲スニモ正確ナル理性ニヨツテ充分ニ思慮シ、夫デ自ラ決斷シテ自ラ其ノ責ニ任ゼチバナラス。私ガ諸子ニ第一方法トシテ自由ヲ提唱スルノハ此點デアアル。

進取トハ何カ。生徒諸子。生活現象ニハ變化ガ始終アル。自分ノ生活ヲ考ヘテ御覽。物質的ニイツテモ、一呼吸毎ニ身體ヲ構成シテル物質ハ斷エヌ新陳代謝シテ、一刻モ同一デナイ。又精神ヲ省ミテモ時々刻々ニ意識ガ變轉シテ、靜觀スルコトノ頗ル困難ナコトノ經驗ハ諸子ニモ充分アラウ。又國家ヤ社會ニシテモ其ノ歴史ハ年々歳々ニ、イヤ時々刻々ニ變化シテ少シモ止マヌノデアアル。之ヲ五十年モ百年モ、千年モ萬年モ同一

デアリ、又同一デアラネバナラスト考ヘルノハ、健全ナ頭腦ノ所有者ニハ考ヘラレヌコトデアアル。生徒諸子。然シ生活現象ハ單ニ變化デアツテハナラス。人ニハ發育ガアリ、衰弱ガアリ、種ニモ變化ガアリ退化ガアリ、國ニモ盛衰興亡ガアル。夫デ苟モ自分ノ生命ヲ重ズル以上ハ進歩發展ノアル生活デナケレバナラス。

生徒諸子。諸子ハ人生ニ於テ發育進歩ノ最モ盛ナ時期デアツテ我帝國モ亦國運ヲ振張セチバナラス時機デアアル。夫デアルカラ何事モ單ニ現狀ヤ舊態ニ丈満足シテ居ランデ、自分ノ事モ國家ノ事モ始終其ノ將來ノ進歩ヲ考ヘテ、豫メ之ニ對スル考デ計劃シテ行カチバナラス。進取トハ實ニ此意味デ必要ナ修養方法デアアル。

信愛トハ何カ。生徒諸子。金剛石デナケレバ琢ケナイ。活キタ人物ハ生キタ人物デ砥礪セチバナラス。獨房ノ靜觀モ修養ノ一方法デアアルガ、其丈デハ駄目デアアル。人物ヲ相手ニ修養シテ居ラヌト眞ノ人間ニハナレヌ。諸子ハ幸ニ選拔サレタ學生デアツテ、其ガ朝夕一ツノ學校ヤ學寮デ事ヲ共ニシテルノデアアル。此間ニ赤裸々ノ僞ノナイ全人格ヲ發露シテ互ニ切磋琢磨シテ行ツテ、眞ニ會心ノ友ヲ得チバナラス。夫デアルカラ

同學級ナリ、同母校ナリ、同郷ナリ、同信仰ナリ、同趣味ナリデ友ヲ會シ、友ヲ以テ仁ヲ輔ケテ、個人的ニモ團體的ニモ其修養ヲ大成セテバナラス。生徒諸子。友ヲ得易イ此時ニスラ友ヲ得ルコトガ出來ヌ様ナ事ガアツテハ將來社會ヘ立ツテハ猶更困難ト思ハテバナラス。

生徒諸子。私ガ學校長トシテ要求スルノハ、簡單ニ質實剛健ノ徳デアツテ、之ヲ修養スルニ自由、進取、信愛ノ三方法ニヨルコトヲ勸メル。

終ニ諸子ニ一言シタイノハ現今ノ選抜試験制ノ缺點デアアル。今日各學校デ入學ニ選抜試験ヲ行ツテルノニ、其問題ノ提出ニ答案ノ調査ニ成績ノ計算ニ凡テ完全ヲ期シテ、當局者ハ各苦心慘憺シテ居ルガ、教育上カラ高等批評ヲスルト、危險ナ方法デアアル。一體人ハ發育進歩シテ行クモノデ、殊ニ諸子ノ如キハ最モ著イ時期ノモノデアアル。斯ル者ヲ評價スルノニ入學試験ノ一時機丈ノ成績ニノミニヨツテ判斷スルコトガ、頗ル不完全デ危險ナル方法トイノデアアル。發育進歩シテル者ハ、其ノ發育進歩ノ速サ、其ノ發育進歩ノ狀勢等ヲ動態的ニ考フベキモノデアツテ、一時機丈ノ靜態デ判斷スル

ノハ危險デアアルデアアル。然シ今日ノ教育學術ノ程度デハ不満足ナガラ、此邊ノ方法デ我慢ヲシテ居ルノデアアル。生徒諸子。今回ノ入學試験ニモ本校ノ試験委員ガ答案ノ採點調査成績ノ計算判定ニマデ頗ル苦心ヲシテ萬全ヲ期シタルデアアルガ入學試験其物ノ性質ガ斯ルモノデアアルカラ、諸子ガ實力ノ正當ナル處デ入學出來タノカ、偶然ノ僥倖モアツタノカハ、今後ノ諸子ノ成期ニ徴シテ見テバナラス。生徒諸子。諸子ハ約七百中ノ四分ノ一以内ニ入ツタトテ、決シテ油斷シテハナラス。諸子ノ眞價ハ今後デアアル。私ハ諸子ガ私ノ要求ト勸告トヲ充分ニ理解シテ吳レタ事ト信ズル。

新潟高等學校校友會規則

第一條 本會ノ目的ハ會員ノ心身ヲ鍊磨シ併セテ其ノ和衷協同ヲ謀ルニアリ

第二條 本會ハ新潟高等學校校友會ト稱ス

第三條 本會々員ハ左ノ二稱トス

特別會員 本校職員

通常會員 本校生徒

第四條 通常會員ハ會費トシテ一箇年金七圓ヲ納ムルモノトス但シ第一學期ハ金四圓

第二學期ハ金參圓トシ授業料ト同時ニ納付スルモノトス

第五條 通常會員ハ入會ノ際入會金貳圓ヲ第一學期分會費ト共ニ納付スルモノトス

第六條 特別會員ハ會費トシテ每月年俸給月額或ハ月俸ノ二百分ノ一ヲ納ムルモノト

ス

第七條 本會ニ左ノ五部ヲ置ク

總務部

學藝部

武道部

運動部

購買部

第八條 總務部ハ本會各部ノ庶務並ニ會計ヲ總ベ各部ハ本會ガ目的ヲ達スル爲ニ必要

ナル諸種ノ事業ヲ分担ス

第九條 學藝部ハ辯論講演會等ノ開催、校友會雜誌ノ編輯發行生徒圖書閱覽、旅行ニ關スルコトヲ其事業トス

第十條 武道部ハ劍道、柔道、弓道及遊泳ノ修練ヲ以テ其ノ事業トス

第十一條 運動部ハ庭球、野球、陸上競技、相撲、スキー其ノ他各種運動ノ練習ヲ以テ其ノ事業トス

第十二條 購買部ハ學用品其他本會指定ノ日用品ヲ購入シ之ヲ會員ニ販買スルヲ以テ其ノ事業トス

第十三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 本校々長ヲ推ス

副會長 一名 本校教頭ヲ推ス

部長 各一名 特別會員中ニツキ會長之ヲ委囑ス

副部長 若干名 同

- 出納係 若干名 同
- 庶務係 若干名 同
- 委員各部 若干名 通常會員ノ互選ニ係ル候補者ノ中ニツキ部長之ヲ委囑ス
- 第十四條 會長ハ本會ヲ總理ス
- 第十五條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ總務部長ヲ兼子會長事故アルトキハ之ニ代ル
- 第十六條 部長ハ當該部ヲ總理ス
- 第十七條 副部長ハ部長ヲ輔佐ス
- 第十八條 出納係ハ本會ノ金錢ヲ納リ掌リ庶務係ハ本會ノ庶務一切ヲ掌ル
- 第十九條 委員ハ當該部ノ庶務及會計ヲ處理ス
- 第二十條 各部豫算及年中行事ハ部長及副部長ノ指導ノ下ニ委員之ヲ編成シ總務部ヲ經テ會長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第二十一條 部長副部長及委員ノ任期ヲ各一箇年トシ毎年十二月中ニ交代ス

附 則

- 第二十二條 各部ノ事業項目ハ部長ニ於テ時ニ増減スルコトアルヘシ
- 第二十三條 本會々計ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十四條 本會各部ノ細則ハ各部ニ於テ之ヲ定メ會長ノ決裁ヲ受クヘシ

新瀨高等學校校友會々計規程

- 第一條 校友會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 會計年度ニ關スル收入支出ノ出納ハ翌年度五月三十一日迄ニ完結セシム
- 第二條 本會收入支出豫算案ハ前年度ノ一月中ニ編成ス
- 第三條 本會々計ノ豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ經常部支出ハ之ヲ總務部費、學藝部費、武道部費、運動部費、購買部費及豫備費ノ六款ニ區別ス
- 第四條 豫備費ハ收入豫算金額ノ百分ノ五以上十以内トシ他ノ各款ニ於ケル已ムナキ豫算ノ不足ニ備フ
- 第五條 豫算殘餘ハ本會ノ基本金ニ編入ス但シ場合ニヨリ各部長ノ協議ノ上其ノ一部

若ハ全部ヲ翌年度ノ豫算ニ編入スルコトアルヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ニ依リ豫算ノ不足ヲ生シタル場合ニハ各部協議ノ上臨機追加豫算ヲ編成シ之ヲ補フコトアルヘシ

第七條 本會ハ會費ノ全部入會金總額ノ四分ノ三寄附金及基本金ヨリ生メル利子ヲ以テ歲入トス

第八條 豫算編成後ニ於テ寄附金ノ申込ヲ受ケタルトキハ各部協議ノ上之ヲ處置ス

第九條 各部委員ニ於テ所定ノ經費ヲ使用セントスルトキハ其ノ都度部長宛支拂請求書ヲ發スヘシ

第十條 各部間ニ於テ已ムヲ得ス豫算額ヲ流用セントスルトキハ關係役員相互ノ諒解ヲ經テ總務部長ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 同一部内ノ各項、同一項内ノ各自間ニ於ケル豫算額ノ流用ハ部長ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 各部ニ於テ豫備費ヲ使用セントスルトキハ總務部長ヲ經テ會長ノ承認ヲ受

關係法規

○文部省直轄諸學校官制(抄出)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

新 潟 高 等 學 校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校 長

教 授

生 徒 監

助 教 授

書 記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トシ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ担任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任

教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其學

科ノ授業ヲ担任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其

委員ハ文部大臣之ヲ命ス

○文部省直轄諸學校職員定員令(抄出)

文部省直轄諸學校專任教員ノ定員左ノ如シ

新 瀧 高 等 學 校	校 長	一	教 授	二五	助 教 授	四	書 記	五
以下略								

クヘシ

第十三條 各部長委員ハ其ノ部ノ決算報告書ヲ翌年度五月末日ニ部長ニ差出スヘシ各部長ハ承認ノ上之ヲ總務部長ニ回付スルモノトス

第十四條 總務部ハ各部ヨリ提出スル決算報告書ヲ取纏メテ會計原簿ト比較審査シ翌年六月末日迄ニ全決算報告書ヲ調成シテ之ヲ公表スヘシ

第十五條 總務部ハ翌年度六月末日迄ニ各部ニ於ケル備品ノ審査ヲナスヘシ

第十六條 各部委員ハ各部ニ關スル會計簿、物品原簿、物品出納簿ヲ整理保管シ毎年七月及十二月中ニ此等ノ帳簿ヲ部長ヘ差出シ該期間ニ於ケル狀況ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十七條 出納係ハ物品原簿、現金出納簿、會費收入簿、支拂請求書綴及受取證綴ヲ整理保管シ各年度末ニ於テ總務部長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十八條 基本金ノ財源ハ左記各項ノ一ニ當ルモノヲ以テス

- 一 通常會員入會金總額ノ四分ノ一
- 二 基本金トシテ特ニ指定セラレタル寄附金

三 豫算残額

第十九條 基本金ハ一切經常費ニ編入セザルモノトス但シ基本金ヨリ生スル利子ハ之ヲ通常會計ニ編入ス

○文部省直轄諸學校長職務規程

文部省訓令號外(大正二年六月)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲナスコト

第三條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第四條 校長ハ毎會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

○文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル規定

勅令第九十六號(明治二十六年九月)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

○文部省直轄學校外國人特別入學規程

文部省令第十五號(明治三十四年十一月)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受クントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受クントスル外國人ハ前條ノ紹介ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ届出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリ

ト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第四條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受クントスル者ハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト見做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○臺灣人朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用

文部省令第十六號(明治四十四年四月)

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若ハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

○學校及圖書館特別會計法(抄出)

第一條 文部省直轄諸學校及帝國圖書館ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テシメ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ通スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ支出ニ充テシム

高等學校令

勅令第三百八十九號 (大正七年十二月五日)

高等學校令

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人ガ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限

ハ一年トス

専攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

専攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第

七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ専攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異なる生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徴シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督

上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マデ之ヲ存置ス

高等學校規程

文部省令第八號 (大正八年三月二十九日)

高等學校規程

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、圖書、唱歌、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身		一	一	一	一
國語及漢文		八	八	六	六

外國語	六	七	七	七
歷史	三	三	三	三
地理	三	三	三	三
數學	四	四	五	四
博物學	二	二	二	二
物理及化學			二	四
圖畫	一	一	一	一
唱歌	一	一		
體操	三	三	三	三
計	二九	三〇	三〇	三一

體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內增加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、

地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス
高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務竝人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現状ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學、有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜上主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
法制及經濟			二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(三三) 二九	(三三) 二九	(三三) 二八

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三三)	(三三)	(三三)
計	(三三) 三三	(三三) 三三	(三三) 三三

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四
物理學		三	講義三五 實驗三五
化學		三	講義三五 實驗三五
植物及動物	二	二	講義二四 實驗二四
礦物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖書	二	二	(一)
體操	三	三	三

計 二八 (三三) 二八 (三三) 二八 (三三)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物講義ニ實驗(二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三三)	(三三)	(三三)
計		(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、鑛物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ

要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舎ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本等

ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一 學則、日課表及教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル

書類

四 試驗ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、

模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故

保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 高等學校令第七條ノ事項

三 學則

四 各科ノ生徒定數

五 位置及校地

六 校舍ノ圖面及建設ノ設計

七 開校ノ期日

八 經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ

定性分析表ヲ添附スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

シ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科ノ科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限り入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且ツ前各學年ノ課程ヲ修了シタルモノト同等以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限り試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得
試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規

定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテ

ニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス
高等中學校規程明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規
程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

○高等學校高等科入學資格試驗規程

文部省令第九號 (大正八年三月廿九日)

高等學校高等科入學資格試驗規程

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ
年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タ
ルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ
行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マデノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ

之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交
付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○專門學校入學者檢定規程

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ
高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齡男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若クハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分チテ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問類、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

◎文部省令條十四號（大正八年四月十九日）

官立高等學校高等科入學者選抜試験規程

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選抜試験ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選抜試験ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選抜試験ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ
指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二個以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ
指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ
志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙
類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試

験ノ成績順ニ依リ選出ス

二 前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

三 前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志
望類ニ配當ス

四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ
於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス

五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス

前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ
得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○直轄諸學校へ入學許可發表ノ件

文部省専門學務局通牒(明治二十八年八月)

同一人ニシテ二個以上ノ直轄諸學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學校ハ三十六年文部省告示第九十六號(四十二年告示二二三號ニテ改正)ニ依ルヘキハ勿論ニ候處其ノ入學許可ノ前後ハ本年ノ入學者ヨリ官報登載ノ當日ヲ以テ區別スヘキコトニ省議決定候間御了知相成度尙自今ハ入學許可ノ日ト官報ニ登載ノ當日ト同日ニ相成候様取扱相成度此段及通牒候也

○校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄學校入學試驗無効ノ件

文部省令第十八號(明治二十八年十月)

文部省直轄學校ノ生徒ニシテ豫メ校長ノ許可ヲ得ス他ノ文部省直轄學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試驗ハ無効トス

○二校以上入學志願者ノ入學スヘキ學校

文部省告示第二百十三號(明治四十三年九月)

明治三十六年文部省告示第九十六號ヲ改正スルコト左ノ如シ

同一人ニシテ東京帝國大學農科大學農學實科、同林學實科、同獸醫學實科、東北帝國大

學農科大學豫科、同附設農學實科、同附設土木工學科、同附設林學科、同附設水產學科、東北帝國大學附屬工學專門部並文部直轄諸學校中ノ二個以上ノ學科專門部若ハ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學ヲ許可セラレタル學科專門部若ハ學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二個以上ノ學科專門部若クハ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學科專門部若クハ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

○行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

文部省訓令第十八號(明治四十三年八月以後數次改正)

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劍ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車力中隊ノ左翼約十歩ヲ過ギタルトキハ元ノ姿勢ニ復セシム

御車力中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ「齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車ガ指揮者ノ前ニ達シタルトキ」禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

新潟高等學校教科書一覽 (大正十年度)

	國語及漢文		英語		獨逸語		論。數。化。動。經。	
	書目	發行所	書目	發行所	書目	發行所	書目	發行所
第三年	文	藤井紫影 枕草紙 積善館	M. Arnold; Essays in Criticism. Cassel & Co.	Köber; Lesestücke. 岩波	Fuchs; Volksweirtschaftslehre. Sammlung Göschen 2 丙			
		芳賀矢一 國文學史代選 (上古篇) 文會堂	Guizot; History of Civilization in Europe. 興文社	Cohn; Führende Denker. 青木				
	文	藤井紫影 枕草紙 積善館	Thackeray; Henry Esmond. Macmillan Co.	Windelhand; Die philosophie in deutschen des 19 Jahrhunderts. 郁文堂	Fuchs; Volksweirtschaftslehre. Sammlung Göschen 2 丙			
		芳賀矢一 國文學史代選 (上古篇) 文會堂		Ziegler; Der Deutsche Student. 郁文堂				
理			H. Belloc; On Nothing and kindred subjects. Methuen	Saure; Erzählungen nach Dramen deutscher klassiker. 丸善	坂井英太郎 微文 積文 學 開成館			
			Hughes; Tom Brown's School Days. 興文社	片山; Kleinere Essays aus der gegenwart. 南江堂	五島清太郎 實驗動物學 第一卷 金港堂			
乙			Thackeray; Henry Esmond. Macmillan Co.	雪山徳夫; Leben and Bildung. 南江堂	坂井英太郎 微文 積文 學 開成館			
				Mörke; Mozart auf der Reise nach Prag. Kleist, michael kohhaas. 三浦, 上村; Deutsche geistesheben. Der kleine Deutsch. 郁文堂	五島清太郎 實驗動物學 第一卷 金港堂			
第二年	文	鴻巣盛廣外二人 佛文 佛句抄 裳華房	Stevenson; Dr. Jekyll and Mr. Hyde. 岩波	青木 Moderne Novellen und Erzählungen. 郁文堂	Creighton; An Introductory Logic. Macmillan & Co.			
		全 上 萬葉集抄 全 觀文堂	Shima; 20th Century Essayists, II. 丸善	澤井 Moderne Erzählungen. 南江堂				
	文	瀧川龜太郎 墓標論語集註 金港堂	Lamb; Essays of Elia. Macmillan Co.	平田元吉 Vier Essays. Meyer; Gustav Adolfspage. 登張小池 現代獨逸文學集 II. 成田 Acht Moberne Essays. 南江堂	Creighton; An Introductory Logic. Macmillan & Co.			
		全 上 萬葉集抄 全 觀文堂	Byron; childe karold. Macmillan Co.	Schiller; Jungfrau Von Orlean. 南江堂				
理			Aldrich; Story of a Bad Boy. 興文社	Körner; Erzählungen. 南江堂	菊池大説 Analytical geometry. 圖書式會社			
			Tolstoy; Twenty-Three Tales. 興文社	Goethe; Mignon. 郁文堂				
乙			細田秀造 Specimens of Recent English Literature (III. Essays) 明治書院	Kayser; A Brief german course. American Book Co. 南江堂	菊池大説 Analytical geometry. 圖書式會社			
			J. Conrad; The Nigger of The Narcissus. 興文社	Richardson; Aus dem Leben eines Taugenichts. 南江堂				
第一年	文	鴻巣盛廣外二人 小説抄 中巻 裳華房	G. Gissing; The house of Cobwebs. 興文社	大村等 獨逸語入門 精華書院	渡邊孫一郎 數學諸論大要 裳華房			
		全 近代和歌抄 全 春和堂	Carlyle; Essay on Burns. 興文社	Whitney; A brief german grammar. 郁文堂				
	文	鴻巣盛廣外二人 小説抄 中巻 裳華房	岡田實隆 Select Literature. 興文社	大村等 獨逸語入門 精華書院	渡邊孫一郎 數學諸論大要 裳華房			
		全 近代和歌抄 全 春和堂		三浦青木 新編獨逸語讀本 I. 郁文堂				
理			M. Corelli; Cancons. Methuen	上村 獨逸文法教科書 南江堂	Todhunter; Plane Trigonometry. Macmillan			
			Carlyle; Essay on Burns. Macmillan Co.	一高 獨逸語讀本 南江堂				
乙			關谷 New Language reader I-IV 開成館	大村等 獨逸語入門 精華書院	Todhunter; Plane Trigonometry. Macmillan			
			岡田實隆 Select Literature 興文社	大村等 獨逸語入門 精華書院				

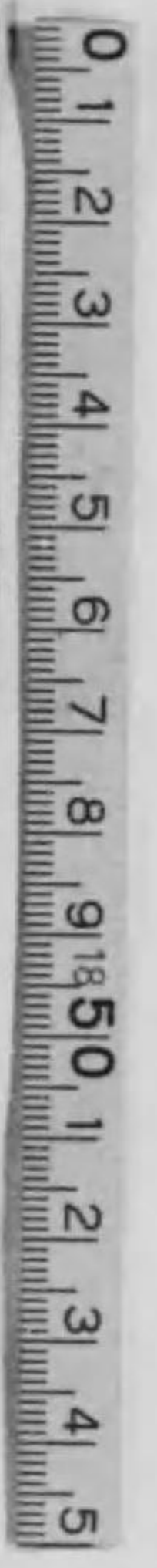
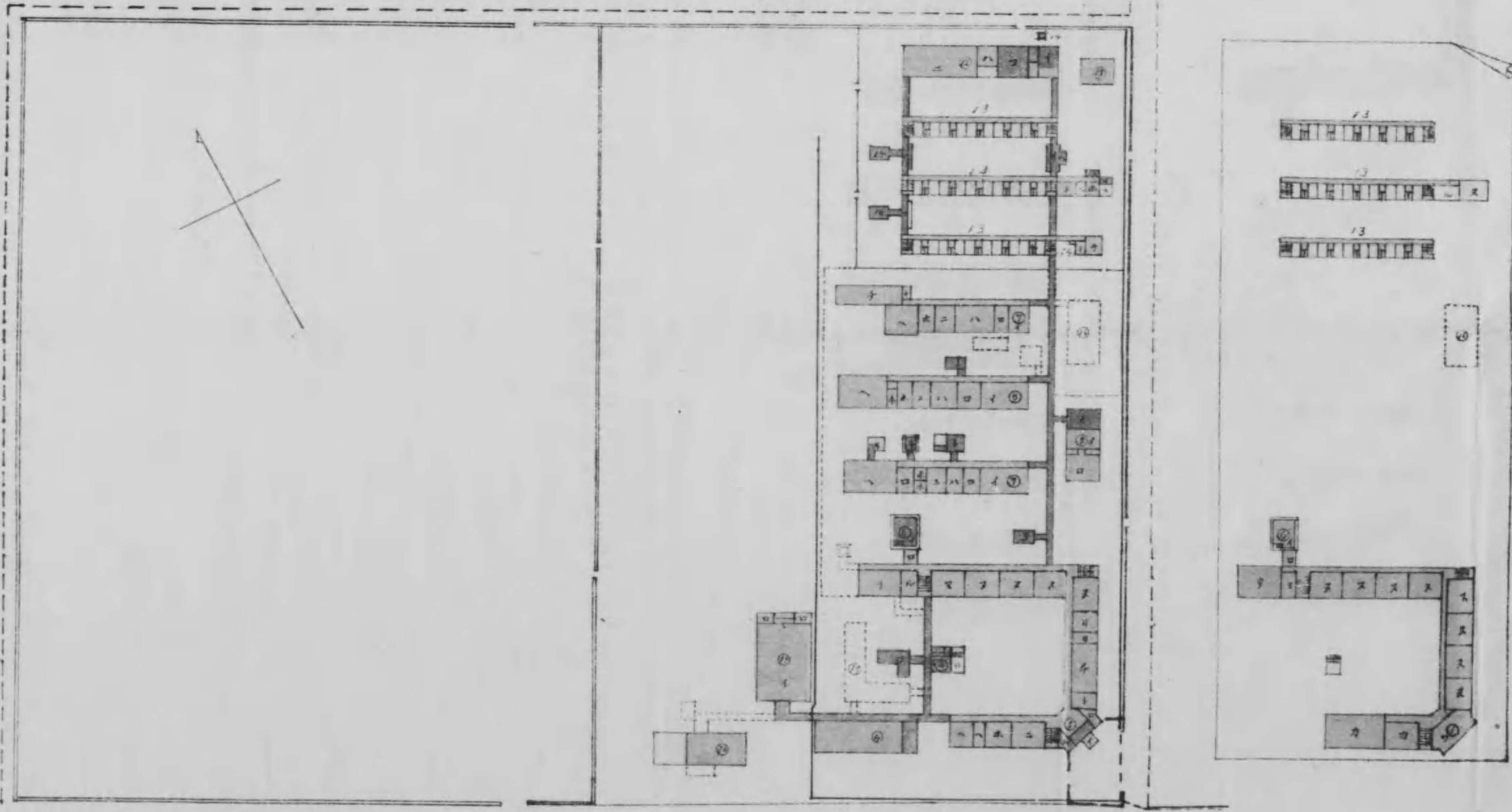
0 1 1 2 1 3 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 9 1 8 5 0 1 1 2 1 3 1 4 1 5

丸	既設並施等木造建物
□	木設水造建物
□	煉瓦造
□	床板張り
■	畳敷
■	コンクリート印キ
■	石畳
■	排水溝
■	柵鉄柵等
■	土堤
■	道路

新潟高等學堂建校物略圖

縮尺二千百分一

建物内評	名	番
1	支	1
2	受	2
3	下	3
4	會	4
5	計	5
6	校	6
7	長	7
8	會	8
9	講	9
10	義	10
11	會	11
12	講	12
13	義	13
14	會	14
15	講	15
16	義	16
17	會	17
18	講	18
19	義	19
20	會	20
21	講	21
22	義	22
23	會	23
24	講	24
25	義	25
26	會	26
27	講	27
28	義	28
29	會	29
30	講	30
31	義	31
32	會	32
33	講	33
34	義	34
35	會	35
36	講	36
37	義	37
38	會	38
39	講	39
40	義	40
41	會	41
42	講	42
43	義	43
44	會	44
45	講	45
46	義	46
47	會	47
48	講	48
49	義	49
50	會	50
51	講	51
52	義	52
53	會	53
54	講	54
55	義	55
56	會	56
57	講	57
58	義	58
59	會	59
60	講	60
61	義	61
62	會	62
63	講	63
64	義	64
65	會	65
66	講	66
67	義	67
68	會	68
69	講	69
70	義	70
71	會	71
72	講	72
73	義	73
74	會	74
75	講	75
76	義	76
77	會	77
78	講	78
79	義	79
80	會	80
81	講	81
82	義	82
83	會	83
84	講	84
85	義	85
86	會	86
87	講	87
88	義	88
89	會	89
90	講	90
91	義	91
92	會	92
93	講	93
94	義	94
95	會	95
96	講	96
97	義	97
98	會	98
99	講	99
100	義	100



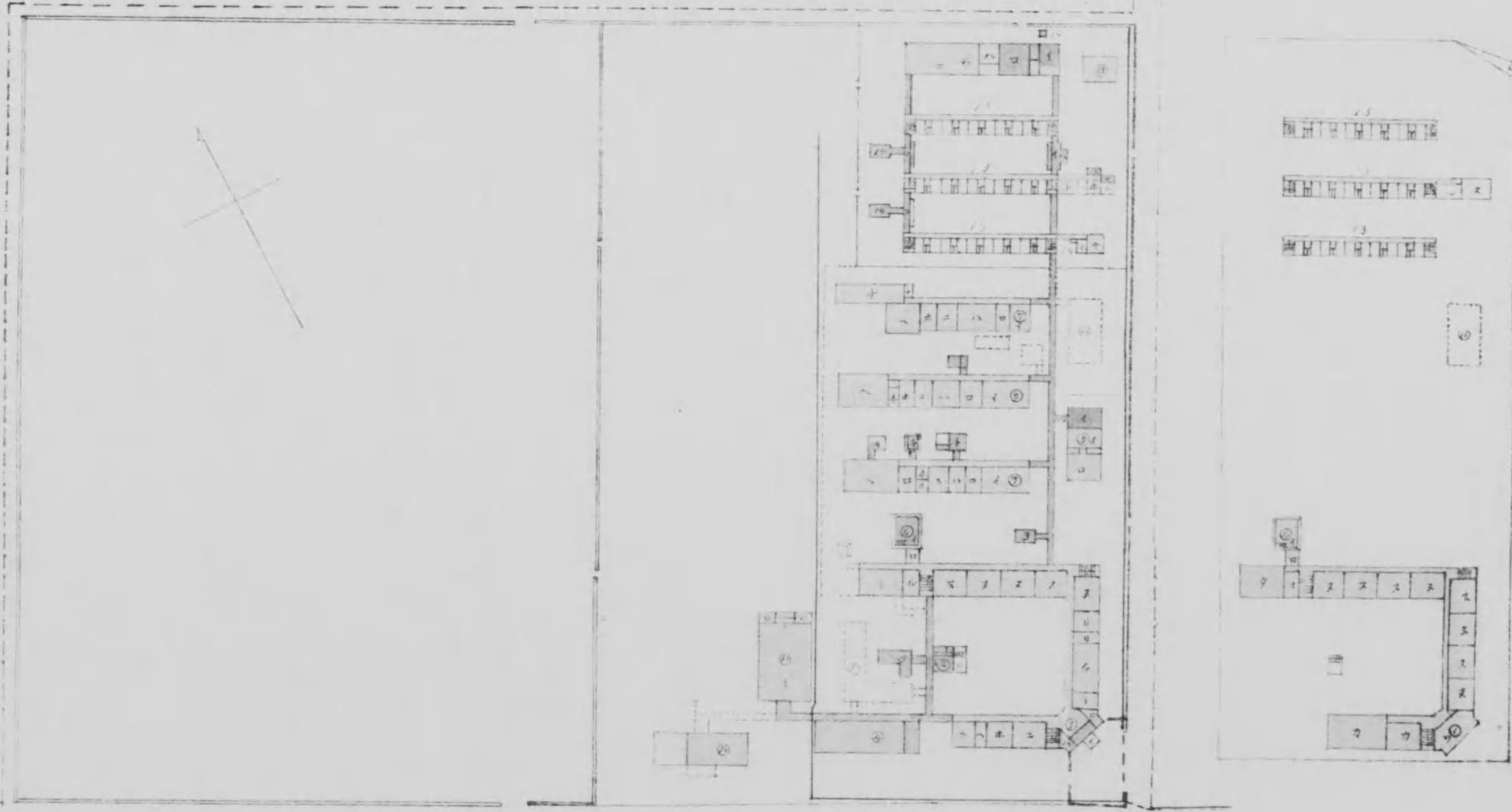
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

瓦	既設若施中木造建物	木造水造建物	煉瓦造	床板張	畳敷	コンクリート	石	排水溝	柵等	土堤	道路
---	-----------	--------	-----	-----	----	--------	---	-----	----	----	----

新潟高等學校建校物略番

縮尺十分之一

建物内譯		備考	
1	校長室	1	校長室
2	副校長室	2	副校長室
3	會計室	3	會計室
4	庶務室	4	庶務室
5	教務室	5	教務室
6	図書室	6	図書室
7	音楽室	7	音楽室
8	美術室	8	美術室
9	理科教室	9	理科教室
10	化学室	10	化学室
11	物理室	11	物理室
12	生物室	12	生物室
13	植物室	13	植物室
14	動物室	14	動物室
15	演習室	15	演習室
16	講義室	16	講義室
17	実習室	17	実習室
18	講義室	18	講義室
19	講義室	19	講義室
20	講義室	20	講義室
21	講義室	21	講義室
22	講義室	22	講義室
23	講義室	23	講義室
24	講義室	24	講義室
25	講義室	25	講義室
26	講義室	26	講義室
27	講義室	27	講義室
28	講義室	28	講義室
29	講義室	29	講義室
30	講義室	30	講義室
31	講義室	31	講義室
32	講義室	32	講義室
33	講義室	33	講義室
34	講義室	34	講義室
35	講義室	35	講義室
36	講義室	36	講義室
37	講義室	37	講義室
38	講義室	38	講義室
39	講義室	39	講義室
40	講義室	40	講義室
41	講義室	41	講義室
42	講義室	42	講義室
43	講義室	43	講義室
44	講義室	44	講義室
45	講義室	45	講義室
46	講義室	46	講義室
47	講義室	47	講義室
48	講義室	48	講義室
49	講義室	49	講義室
50	講義室	50	講義室
51	講義室	51	講義室
52	講義室	52	講義室
53	講義室	53	講義室
54	講義室	54	講義室
55	講義室	55	講義室
56	講義室	56	講義室
57	講義室	57	講義室
58	講義室	58	講義室
59	講義室	59	講義室
60	講義室	60	講義室
61	講義室	61	講義室
62	講義室	62	講義室
63	講義室	63	講義室
64	講義室	64	講義室
65	講義室	65	講義室
66	講義室	66	講義室
67	講義室	67	講義室
68	講義室	68	講義室
69	講義室	69	講義室
70	講義室	70	講義室
71	講義室	71	講義室
72	講義室	72	講義室
73	講義室	73	講義室
74	講義室	74	講義室
75	講義室	75	講義室
76	講義室	76	講義室
77	講義室	77	講義室
78	講義室	78	講義室
79	講義室	79	講義室
80	講義室	80	講義室
81	講義室	81	講義室
82	講義室	82	講義室
83	講義室	83	講義室
84	講義室	84	講義室
85	講義室	85	講義室
86	講義室	86	講義室
87	講義室	87	講義室
88	講義室	88	講義室
89	講義室	89	講義室
90	講義室	90	講義室
91	講義室	91	講義室
92	講義室	92	講義室
93	講義室	93	講義室
94	講義室	94	講義室
95	講義室	95	講義室
96	講義室	96	講義室
97	講義室	97	講義室
98	講義室	98	講義室
99	講義室	99	講義室
100	講義室	100	講義室



283
39

大正十年十月廿五日印刷
大正十年十月三十日發行

新潟高等學校

新潟市旭町通二番町
(電話一六〇〇番)

印刷者 小林 二郎

新潟市東中通一番町

印刷所 小林活版所

新潟市東中通一番町
(電話四〇八番)

終

